beyerdynamic

TG 1000

UHF デジタルワイヤレスシステム

取扱説明書

本製品を日本国内で使用する場合は、無線局免許が必要です。
詳しくは、総務省の電波利用ホームページをご参照ください。（http://www.tele.soumu.go.jp/）

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 1 14/01/21 14:10

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項を良くお読みください。

⚠ **警告**	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	万一、異常が起きたら 煙が出た、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはオーディオブレインズ（最終ページに記載）に修理をご依頼ください。
 指示	電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年1回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
 禁止	電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはオーディオブレインズ（最終ページに記載）に交換をご依頼ください。
	付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20cm以上）離して設置する ラックなどに入れるときは、機器の天面から1U以上、背面から10cm以上の隙間を空ける 隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
 禁止	機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 2 14/01/21 14:10

警告

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

分解禁止	この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検･修理は販売店またはオーディオブレインズ（最終ページに記載）にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く	移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。
指示	オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書を良く読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。
禁止	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となることがあります。
注意	5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはオーディオブレインズ（最終ページに記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 3 14/01/21 14:10

電池の取り扱いについて

本機のトランスミッターは、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

⚠ 警告 乾電池に関する警告	
禁止	乾電池は絶対に充電しない 破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

⚠ 警告 電池に関する警告	
強制	電池を入れるときは、極性表示（プラスとマイナスの向き）に注意し、電池ケースに表示されている通りに正しく入れる 間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液が漏れて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースに付いた液を良く拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体に付いたときは、水で良く洗い流してください。
禁止	指定以外の電池は使用しない 新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない 破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。
	炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなるところで保管しない 本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。

⚠ 注意 電池に関する警告	
禁止	金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。 ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。
	電池を熱したり、火または水に投げ入れたりしない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
分解禁止	分解しない 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 4 14/01/21 14:10

目次

安全にお使いいただくために 2
電池の取り扱いについて 4

第1章　はじめに 6
本機の概要 6
本製品の構成 6
本書の表記 6
商標および著作権に関して 7
設置上の注意 7
電源について 7
結露について 7
製品のお手入れ 7
ユーザー登録について 7
アフターサービス 7

第2章　TG 1000　UHF ダイバシティレシーバー 8
各部の名称 8
フロントパネル 8
リアパネル 8
アンテナの接続方法 9
リモートアンテナ接続と設置方法 9
設置と接続 10
レシーバーの設置場所 10
ラックマウント 10
レシーバーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法 .. 10
レシーバーを電源に接続する方法 10
設定 11
レシーバーの操作方法 11
メニュー画面を使う 12
名前を設定する（Name） 12
クイックスキャン（Quick Scan） 12
周波数グループ／チャンネルを設定する（GR/CH ） 13
手動で周波数を設定する（Freq） 13
デジタルゲインを設定する（Digital Gain ） 13
アナログ出力レベルを設定する（Analog Out ） 14
トランスミッターのRFパワーを設定する（RF Power） ... 14
電池の種類の設定（Battery） 14
暗号化機能の設定（Encryption ） 15
パワーロック機能の設定（Power Lock） 15
ファンクションメニューを使う 16
レシーバーをネットワークに接続する 16
beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う 19
RFレベルを表示する 21
ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する 22
出荷時の設定に戻す 22
サポート情報を表示する 23
ファームウェアバージョンを表示する 23
レシーバーのファームウェアをアップデートする 23
トランスミッターのファームウェアをアップデートする .. 24
リージョンコードを表示する 24
モニタリング 24
同期 25
マルチチャンネルの操作
（複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用） 25
WA-AS6 6系統アンテナスプリッター（別売アクセサリー） 26
コントロールとインジケーター 26
一般情報 26
取り付けとインストール 27

第3 章　TG 1000　UHF ハンドヘルドトランスミッター 28
各部の名称 28
マイクカプセルの取り付け方法 29
電池をセットする 30
ハンドヘルドトランスミッターの操作方法 30
同期／受信した周波数をトランスミッターに送信する方法 ... 31
メンテナンス 31

第4 章　TG 1000　UHF ベルトパックトランスミッター 32
各部の名称 32
電池をセットする 33
ベルトパックトランスミッターの操作方法 33
受信機で設定した周波数やその他のセッティングを
トランスミッターに送信する方法 34
ゲインスイッチの使い方 34
ベルトクリップの取り付け方法 35

第5章　全てのトランスミッターに共通の注意 36

第6章　オーディオレベルについて 37
トランスミッターのレベル設定 37
ベルトパックトランスミッターのゲインスイッチについて ... 37
レシーバーのレベル設定 37
デジタルゲイン 37
アナログ出力 37
システム全体による増幅度 37
ブロックダイヤグラム 37
ベルトパックトランスミッターのオーディオレベル 37
ハンドヘルドトランスミッターのオーディオレベル 37
レシーバーのオーディオレベル 37

第7章　別売アクセサリー 38
デジタルUHFダイバシティレシーバー用 38
デジタルUHFハンドヘルドトランスミッター用 38
デジタルUHFベルトパックトランスミッター用 38

第8章　仕様 39
デジタルUHFダイバシティレシーバー 39
デジタルUHFハンドヘルドトランスミッター 39
デジタルUHFベルトパックトランスミッター 39
WA-AS6 6系統アンテナスプリッター 40
WA-AMP アンテナ用アンプユニット 40

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 5 14/01/21 14:10

第1章　はじめに

このたびは、beyerdynamic　TG 1000　UHFデジタルワイヤレスシステムをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書を良くお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してください。

本機の概要

TG 1000 は、ホワイトスペース（470-710MHz）および、日本全国で使用可能な特定ラジオマイク専用帯域（710-714MHz）を1台で全てカバーするワイドレンジ仕様です。
柔軟性に富むこのシステムは、プロオーディオ用、ツアー用、設備用として最適です。
先進のデジタルワイヤレスシステムであるTG 1000 は、24ビット周波数偏移変調（FSK） を採用しています。
トランスミッターとレシーバーは、UHF領域内でデジタル通信を行っているため、高い信頼性と高音質を提供します。また、デジタル暗号化により、不正な傍聴を防ぎます。
トリプルプレイコーデックがTG 1000 システムの中核です。
コーデックは内蔵のソフトウェアで、デジタルデータ信号のエンコードやデコードを行います。
TG 1000 システムでは、標準的なコーデックの代わりにトリプルプレイコーデックと呼ばれる独自のソリューションが採用されています。
このコーデックは、1.2msの低遅延、高いノイズ耐性、優れたオーディオ特性を実現しています。
TG 1000 独自の「Genuine Guitar」テクノロジーは、クリアーなギターサウンドを提供します。また、20Hzまでの低周波数をカバーしますので、TG 1000 はベースギターにも最適です。
動作範囲は、最大300メートル。また、 ダイナミックレンジは122dBで優れたS/N比を実現しています。
ウェブサーバーのbeyerdynamic Chameleonソフトウェア が埋め込まれているため、PC、ラップトップ、タブレット、スマートフォンなど、あらゆるデバイスとの通信が可能で、Windows、Mac、Linux、iOS、Androidなどをベースとした各種オペレーティングシステムと互換性があります。
レシーバーはカスケード接続が可能なので、追加のアンテナスプリッターなしで最大24チャンネルのマルチチャンネルシステムを実現できます。また、人間工学的に設計されたハンドヘルドトランスミッターとベルトパックトランスミッターは使い勝手に優れ、迅速な電池交換が可能です。

TG 1000 システムは、以下の機器で構成されています。

- デジタル2チャンネルUHFダイバシティレシーバー
- デジタルハンドヘルドトランスミッター（別売）
- デジタルベルトパックトランスミッター（別売）

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。
なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。
梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管してください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

デジタル2チャンネルUHFダイバシティレシーバー

- 本体　x1
- 電源コード　x1
- ホイップアンテナ　x2
- 保証書　x1
- 日本語取扱説明書（本書）x1

デジタルハンドヘルドトランスミッター（別売）

- 本体　x1
- 交換用カラーリング　X5
- 単3形乾電池　x2
- 保証書　x1

デジタルベルトパックトランスミッター（別売）

- 本体　x1
- アンテナ　x1
- ベルトクリップ　x2
- 単3形乾電池　x2
- 保証書　x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「ESC ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **“Power Lock”** のように “__” で括って表記します。
- パソコンのディスプレー上に表示される文字を《OK》 のように《__》で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

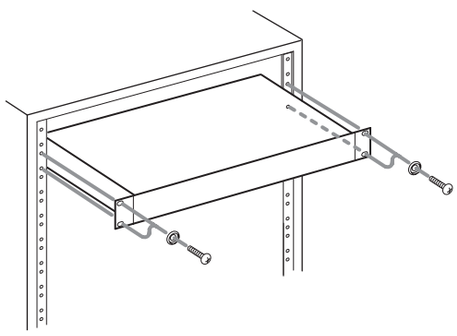
J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 6　14/01/21 14:10

商標および著作権に関して

- beyerdynamicは、beyerdynamic　GmbH　Co.　KGのドイツ、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows　8、Windows　7、Windows　Vista、Windows　XP および Internet　Explorer　は、米国 Microsoft　Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Mac　および iPod　は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.　の商標です。
- QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏0度〜 55 度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。
  - 振動の多い場所
  - 窓際などの直射日光が当たる場所
  - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  - 極端に温度が低い場所
  - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所
  - ほこりの多い場所
- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスキットを使って、下図のように取り付けてください。なお、ラック内部では、本機の上に1U以上 のスペースを空けてください。



電源について

- 付属の電源コードをAC　IN端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- AC100V（50-60Hz）以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1 〜 2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。
各機器のお手入れを、ご覧ください。

アフターサービス

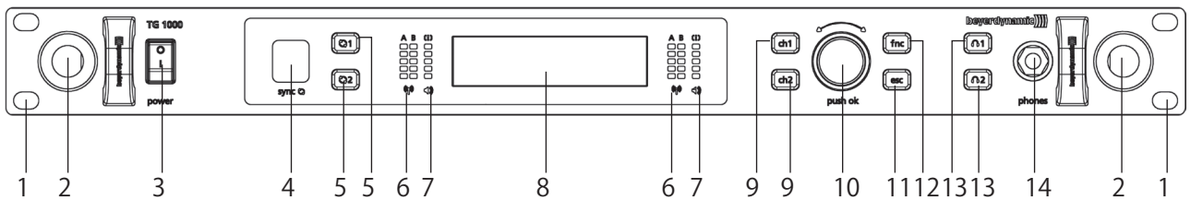
- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。万が一販売店の捺印やご購入日の記載がない場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりオーディオブレインズ（最終ページに記載）が　修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはオーディオブレインズ（最終ページに記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはオーディオブレインズ（最終ページに記載）までご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
  なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
  - 型名、型番（beyerdynamic　TG　1000　）
  - 製造番号（Serial　No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、最終ページをご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd　7　14/01/21　14:10

第2章　TG 1000　UHF ダイバシティレシーバー

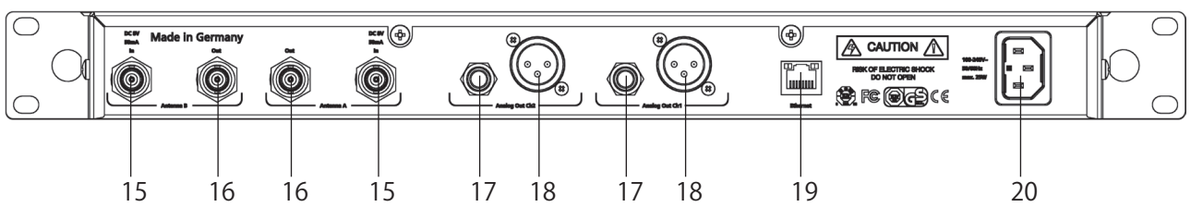
各部の名称

フロントパネル



1　19インチラック取り付け用 穴
2　アンテナ取り付け用穴
3　電源スイッチ
4　赤外線インタフェース
5　同期ボタン（チャンネル1、2用）
6　RFインジケーター（チャンネル1、2用）
7　ピークインジケーター付きAFインジケーター（チャンネル1、2用）
8　ディスプレー（チャンネル1 ／ 2用）
9　チャンネル選択ボタン（チャンネル1、2用）
10　ロータリースイッチ
11　ESCボタン（Escapeボタン）
12　ファンクションボタン
13　モニターボタン（チャンネル1、2用）
14　ヘッドホン端子（ステレオ標準ジャック）

リアパネル

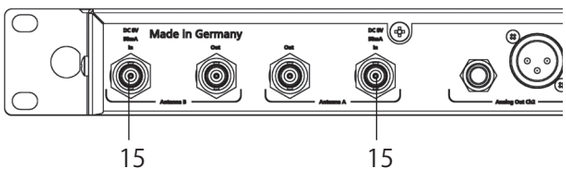


15 アンテナ入力端子
（Antenna　A、Antenna　B）（BNC端子）
16 アンテナ出力端子
（Antenna　A、Antenna　B）（BNC端子）
17 アナログ出力・TRS標準ジャック端子
（チャンネル1、チャンネル2）
18 アナログ出力・XLRバランス端子
（チャンネル1、チャンネル2）
19 イーサネット端子（RJ45）
20 電源コネクター

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 8　14/01/21 14:10

アンテナの接続方法

● 付属のアンテナをAおよびBアンテナ入力（15）に接続し、V字型になるように約60度の角度にセットします。

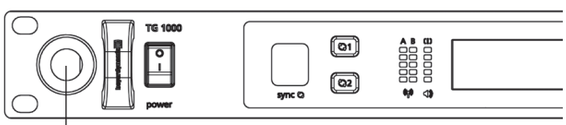


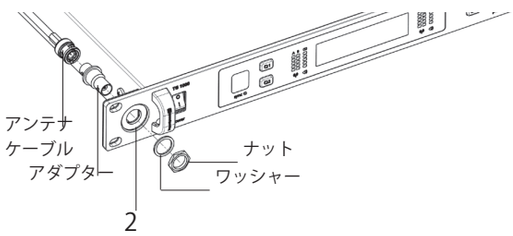
メモ

ダイバシティシステムでは、必ず両方のアンテナを接続してください。より良い信号を受信しているアンテナが自動的に選択されます。

● 別の接続方法として、レシーバーのフロントパネルにアンテナを取り付けることもできます。その場合、WA-CKFアンテナフロント取り付けキットをお使いください。

● アンテナフロント取り付けキット（別売）のアンテナケーブルをアンテナ入力端子（15）に接続してください。





● フロントパネルのアンテナ取り付け用穴（2 ）の保護キャップを外します。

● 付属のアダプターのナットとワッシャーを外します。

● アダプターをアンテナ取り付け用穴（2 ）に差し込み、アダプターのネジ山がフロントに出るようにします。

● ワッシャーとナットを使ってアダプターをしっかりと取り付けます。

● 必要に応じて、レシーバーを19インチラックに取り付けます。

● アンテナケーブルをアダプターのリア側に接続します。

● アンテナをアダプターのフロント側（BNCソケット）に接続します。

● アンテナをV字の角度になるようにセットします。

リモートアンテナ接続と設置方法

受信状態が良くない場合、リモートアンテナを使うことをお勧めします。
リモートアンテナには、パッシブタイプのWA-ATD指向性アンテナ（別売）をお勧めします。

1. 受信アンテナを対応するアンテナ入力端子（15）に接続し、トランスミッターを使用する領域内で、アンテナをレシーバーの右と左に設置します。必要に応じて、ダイバシティの受信状態が改善されるようにアンテナの位置を変えてみてください。
2. 2つの受信アンテナは、少なくとも1メートル離してください。
3. 送信アンテナと受信アンテナは、少なくとも3メートル離してください。これは、オーバーロードおよび異なるチャンネル間の干渉を避けるためです。
   したがって、特にマルチチャンネルシステムでは、アンテナを高い位置に設置することをお勧めします。
4. トランスミッターの使用領域がステージより広い場合、アンテナを天井に垂直方向にマウントすることができます。
   2つの受信アンテナの距離は、使用領域全体の約半分としてください。

メモ

- 受信アンテナは、トランスミッターと同じエリアに設置してください。
- 干渉を避けるために、デジタルコントロールされる機器の近くにアンテナを設置しないでください。
- 金属製の物体（強化コンクリートの壁や柱を含む）から少なくとも50cm離してください。
- アンテナ入力部のアンテナケーブルを曲げないでください。また、ケーブルに無理な力が加わっていないことを確認してください。

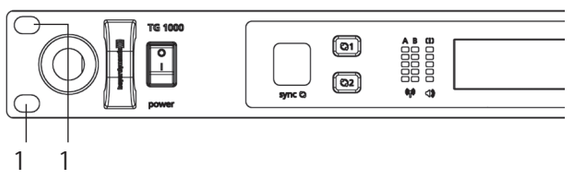
J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 9　14/01/21 14:10

設置と接続

レシーバーの設置場所

- レシーバーは、送信が行われる場所の中に設置してください。
- レシーバーは、なるべくトランスミッターの近くに設置してください。トランスミッターとレシーバー間に何もないのが理想的です。
- レシーバーをデジタル制御機器の近くに設置しないでください。

ラックマウント

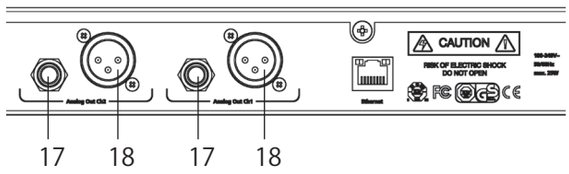


- レシーバーの左右に19インチラック取り付け用穴 （1 ）が用意されています。
- レシーバーを19インチラックに入れ、4本のビスで取り付けます（ビスは付属していません）。

注意

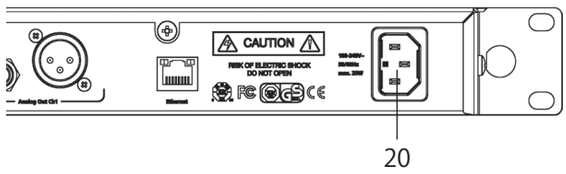
- レシーバーを他の機器と一緒に19インチラックにマウントして使う場合、周囲の温度、機械的ストレス、電位などの状態が単独で使う場合と異なることがあります。
- ラックに複数台のレシーバーを取り付ける場合、レシーバー間の熱の影響を避けるために、1U分のスペースを空けるか、あるいは換気を十分に行ってください。
- ラック内の温度が 39ページ「第8章　仕様」 に規定されている動作温度の範囲を超えないようにしてください。
- ラックに多くの機器をマウントする場合、上部が重くなると転倒の危険がありますので、ご注意ください。
- 電源を接続するとき、背面に表示されている電源仕様を確認してください。また回路の過負荷を避けるために、必要に応じて過電流保護回路を入れてください。

レシーバーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法



- レシーバーからはバランスのオーディオ信号が出力されます。
- チャンネル1または2の アナログ出力・TRS標準ジャック端子（17）またはアナログ出力・XLRバランス端子 （18）を、ミキサーやアンプのバランスマイク入力端子に接続します。
- 各チャンネルのメニュー設定の中で、オーディオ出力のレベルをアンプや、ミキサーの入力レベルに合わせます。詳しくは、12ページ「メニュー画面を使う」 をご覧ください。

レシーバーを電源に接続する方法



- ご使用の電源コンセントの電圧とレシーバーの電圧仕様が一致していることを確認します。

注意

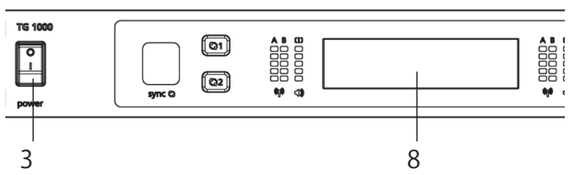
レシーバーを仕様と異なる電圧の電源コンセントに接続した場合、機器を破損する可能性があります。

- 付属の電源コードを使って、電源コネクター（20）と電源コンセントを接続します。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 10　14/01/21 14:10

設定

レシーバーの操作方法

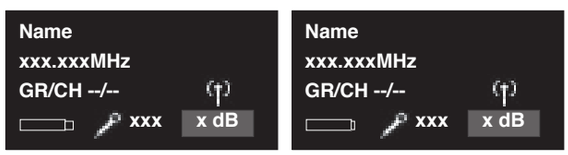


● レシーバーの設置と接続を終えたら、電源スイッチ（3 ）を使って電源を入れます。

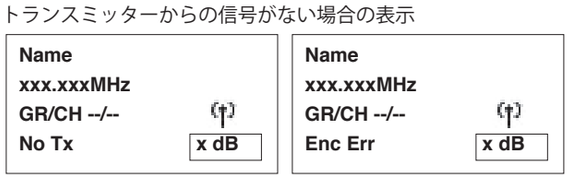
ホーム画面

ディスプレー（8 ）に表示される各チャンネル（1、2）のホーム画面を右に示します。
選択中の周波数でトランスミッターからの信号を受信すると、ディスプレーの背景が黒くなります。
信号を受信していないと、ディスプレーの背景が白くなります。この場合、オーディオ信号はありません。

トランスミッターからの信号がある場合の表示



トランスミッターからの信号がない場合の表示



● 初期状態では、以下の情報が表示されます。

	表示内容	
1行目	選択中の名前（アーティスト名など）	
2行目	選択中の周波数	
3行目	選択中の周波数グループとチャンネル	
4行目	トランスミッターの信号を受信しているとき	電池状況、トランスミッターのタイプ、マイクカプセル、ゲイン（dB）
	トランスミッターの信号がないとき	No TxまたはEnc Err

● レシーバーのフロントパネルの全ボタンが白く点灯します。ボタンを押したとき、あるいはオンの状態にしたとき、点灯色が赤くなります。

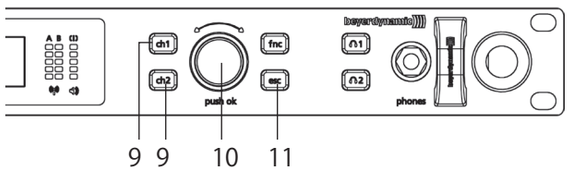
● レシーバーの電源をオフにするには、電源スイッチ（3 ）を使います。ボタンの点灯が消えます。

ホーム画面に表示されるアイコンと意味

- ：ハンドヘルドトランスミッターを使用中です。
- ：ベルトパックトランスミッターを使用中です。
- ：パワーロック機能が動作中です。
- ：暗号化機能が動作中です。
- ：RFパワー が **“Standard”** に設定されています。
- ：RFパワー が **“High”** に設定されています。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 11　14/01/21 14:10

メニュー画面を使う



- レシーバー側では、チャンネル1、2それぞれ別個のメニューで、名前、周波数グループ、周波数、デジタルゲインなどを設定することができます。
- チャンネル選択ボタン（9 ）を使って、チャンネル1（Q1 ）またはチャンネル2（Q2 ）を選択します。
- チャンネル選択ボタン（9 ）が赤く点灯し、ディスプレー（8 ）が変わったら、ロータリースイッチ（10）を回してメニュー項目を選択し、ロータリースイッチ（10）を押してサブメニューに入り、設定を行うことができます。
  ロータリースイッチ（10）を押して設定を確定すると、**“OK”** がディスプレーに表示されます。
- メニューまたはサブメニュー内では、ESC ボタン（9 ）を使って、入力データを取り消すことができます。入力データは適用されず、元のデータが表示されます。

注意

ロータリースイッチ（10）をしばらく操作しないでいると、メニュー画面が自動的に消え、ディスプレー（8 ）がホーム画面に戻ります。ロータリースイッチ（10）を押して、確定しない設定は保存されません。

- メニュー画面の右側に、設定対象のチャンネル（**“1”** または**“2”**）が表示されます。

メモ

通信中のトランスミッターと同期されているチャンネルで、再度同期が必要な設定を変更した場合、変更されたチャンネルの同期ボタン（5 ）が赤く点灯します。

以下の設定画面があります。

名前を設定する（Name）

トランスミッターの名前を設定します。

1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Name Sample”** 項目を選択します。

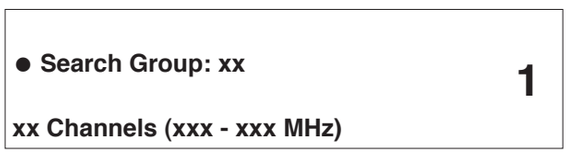
3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Name Sample”** 画面を表示します。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、文字を選択します。
5. ロータリースイッチ（10）を押して、設定した文字を確定します。

クイックスキャン（Quick Scan）

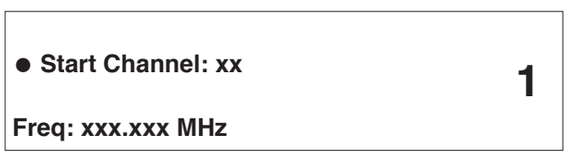
対応するリージョンコード（A、B、C、D、E）に応じて予め決められたグループから、チャンネルや周波数を選択します。

1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Quick Scan”** 項目を選択します。

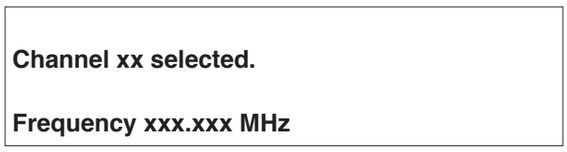
3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Quick Scan”** サブメニュー画面の **“Search Group”** 項目を表示します。
   画面下部にグループ内にいくつのチャンネルが含まれているかが表示されます。



4. ロータリースイッチ（10）を回して、スキャンを開始するグループを選択します。
5. ロータリースイッチ（10）を押して、選択したグループを確定します。
   “Quick Scan” サブメニュー画面に **“Start Channel”** 項目が表示されます。
   画面下部に選択したチャンネルの周波数が表示されます。



6. ロータリースイッチ（10）を回して、選択したグループからスキャンを開始するチャンネルを選択します。
7. ロータリースイッチ（10）を押して、選択したチャンネルを確定します。
   “Quick Scan” サブメニュー画面に **“Scanning”** が表示され、スキャンが開始されます。
   スキャンが終わると次の空きチャンネルが自動的に選択され、画面に選択されたチャンネルとその周波数が表示されます。



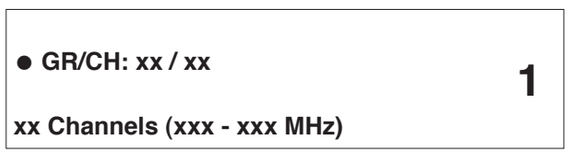
J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 12　14/01/21 14:10

周波数グループ／チャンネルを設定する（GR/CH ）

対応するリージョンコード（A、B、C、D、E）に応じて 予め決められたグループから、チャンネルと周波数を選択します。

1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“GR/CH”** 項目を選択します。

3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“GR/CH”** 画面を表示します。
   画面下部にグループ内にいくつのチャンネルが含まれているかが表示されます。



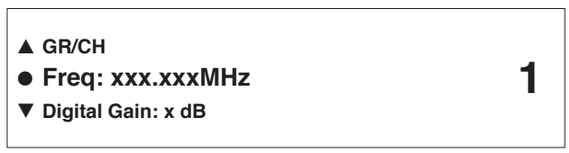
4. ロータリースイッチ（10）を回して、周波数グループを選択します。
5. ロータリースイッチ（10）を押して、選択した周波数グループを確定します。
   “GR/CH” 画面がチャンネル選択状態になります。
   画面下部に選択したチャンネルの周波数が表示されます。

6. ロータリースイッチ（10）を回して、選択したグループからチャンネルを選択します。
7. ロータリースイッチ（10）を押して、選択したチャンネルを確定します。

手動で周波数を設定する（Freq）

470MHz　～ 714MHzの間　の周波数を手動で選択することができます。また、グループ内に含まれていない周波数を選択します。
手動で周波数を選択すると、ホーム画面内に **“GR/CH --/--”** と表示されます。

1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Freq”** 項目を選択します。

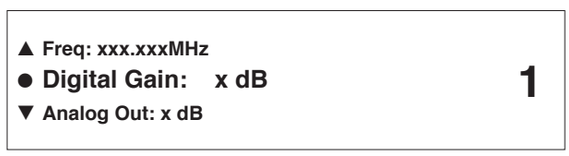


3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Freq”** 画面を表示します。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、周波数の最初の3つの数字を選択します。
5. ロータリースイッチ（10）を押して、選択した周波数グループを確定します。

デジタルゲインを設定する（Digital　Gain ）

本機のオーディオ出力のレベルを、アンプやミキサーの入力レベルにデジタル的に適合させることができます。
マイクが拾う信号レベルが非常に低い場合に、この画面で増幅度を設定します。

1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Digital Gain”** 項目を選択します。



3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Digital Gain”** 画面を表示します。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、増幅度を設定します。
   設定範囲：0dB ～ +30dB（3dBステップ）
5. ロータリースイッチ（10）を押して、設定した増幅度の値を確定します。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 13　14/01/21 14:10

アナログ出力レベルを設定する（Analog Out）

本機のオーディオ出力のレベルを、アンプやミキサーの入力レベルにアナログ的に適合させることができます。
ベルトパックトランスミッターに楽器を直接接続するような場合に、この画面で増幅度を設定します。

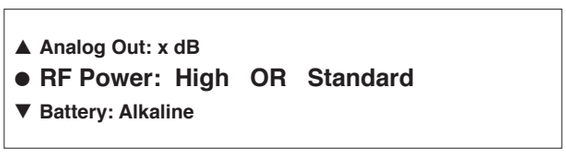
1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Analog Out”** 項目を選択します。

3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Analog Out”** 画面を表示します。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、増幅度を設定します。
   設定範囲：**“0dB”**、**“+12dB”**
5. ロータリースイッチ（10）を押して、設定した増幅度の値を確定します。

トランスミッターのRFパワーを設定する（RF Power）

トランスミッターのRFパワーを設定します。
トランスミッターが受信アンテナに近い場合やマルチチャンネルシステムにおいて相互変調による干渉を避ける場合は **“Standard”** に、トランスミッターと受信アンテナ間の距離が長い場合などで問題がある場合は**“High”** に設定してください。

1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“RF Power”** 項目を選択します。



3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“RF Power”** 画面を表示します。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、RFパワーを設定します。
   選択肢：**“High”**、**"Standard"**
5. ロータリースイッチ（10）を押して、設定したRFパワーを確定します。

メモ

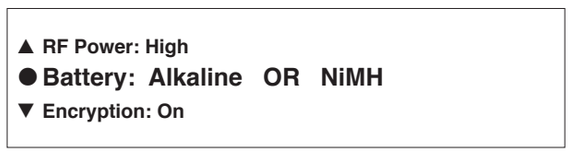
ホーム画面にRFパワーの設定状況が表示されます。

“Standard” ：“ ” アイコンが表示されます。
“High” ：“ ” アイコンが表示されます。

電池の種類の設定（Battery）

トランスミッターに使用する電池の種類を設定します。

1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Battery”** 項目を選択します。



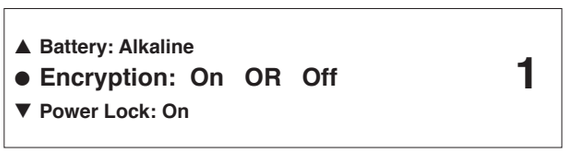
3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Battery”** 画面を表示します。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、トランスミッターに使用する電池の種類を設定します。
   選択肢：**“Alkaline”**、**“NiMH”**
5. ロータリースイッチ（10）を押して、設定した電池の種類を確定します。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 14　14/01/21 14:10

暗号化機能の設定（Encryption ）

オーディオデータの暗号化機能を有効にするかどうかを選択します。
暗号化は、不正な傍聴を防ぐために使われます。

1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Encryption”** 項目を選択します。



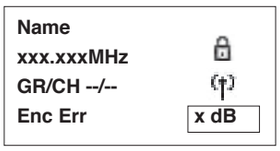
3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Encryption”** 画面を表示します。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、オーディオデータの暗号化の有無を設定します。
   選択肢：**“On”**（有効）、**“Off”**（無効）
5. ロータリースイッチ（10）を押して、暗号化の設定を確定します。

メモ

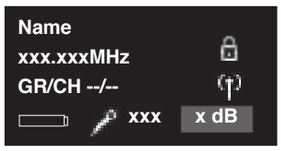
暗号化機能を有効（オン）にしたとき、レシーバーはコードを発生します。相互のコミュニケーションを行うために、レシーバーとトランスミッターは同じコードでなければなりません。したがって、レシーバーとトランスミッターを同期する必要があります。詳しくは、25ページ「同期」 をご覧ください。

注意

- 暗号化機能を有効（オフ）にするたびに新しいコードが発生されるので、これをトランスミッターに送信しなければなりません。
- トランスミッターとレシーバーが同じコードでない場合、あるいは同じコードを持たないレシーバーが暗号化されたトランスミッターを受信しようとすると、レシーバーのディスプレーに **“Enc Err”** が表示され、ディスプレーが白くなります。
- 暗号化機能が有効なとき、“ ” アイコンが表示されます。



[暗号化機能 **“On”** 状態表示]

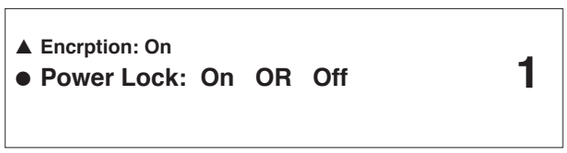


[暗号化機能 **“On”** 状態表示]

パワーロック機能の設定（Power Lock）

パワーロック機能を使用して、トランスミッターの電源をロックすることができます。

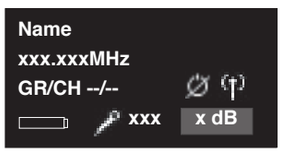
1. ロータリースイッチ（10）を押して、ディスプレー（8 ）にメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Power Lock”** 項目を選択します。



3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Power Lock”** 画面を表示します。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、パワーロック機能のオン／オフを設定します。
   選択肢：**“On”**（有効）、**“Off”**（無効）
5. ロータリースイッチ（10）を押して、パワーロック機能の設定を確定します。

メモ

- パワーロック機能をオンにすると、ホーム画面に“ ” アイコンが表示されます。



[ホーム画面・パワーロック機能 **“On”** 状態表示]

- 選択を確定した後、トランスミッターを再度同期する必要があります。詳しくは、25ページ「同期」をご覧ください。

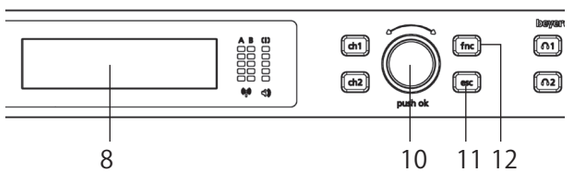
トランスミッターでパワーロック機能をオフにするには

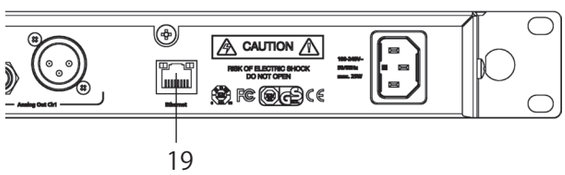
トランスミッターのパワーロック機能がオンのとき、以下の方法でトランスミッターの電源をオフにすることができます。

1. トランスミッターの電源ボタンを押します。
   トランスミッターのディスプレーに **“Power Locked”** が表示されます。
2. **“Power Locked”** 表示中に、再度電源ボタンを押します。
   トランスミッターのディスプレーに **“Off”** が表示され、パワーロック機能がオフになります。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 15 14/01/21 14:10

ファンクションメニューを使う





- レシーバー上からは、レシーバーがネットワーク内で動作中の設定を行う、またはトランスミッターのファームウェアアップデートを行うことができます。また、サポートに関する情報を表示することも可能です。
  以下の機能を設定するには、レシーバーがイーサネット端子（19）経由でネットワークに接続されている必要があります。

機能	参照ページ
レシーバーをネットワークに接続する	→ 16ページ
beyerdynamic　Chameleonソフトウェアを使う	→ 19ページ
RFレベルを表示する	→ 21ページ
ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する	→ 22ページ
出荷時設定に戻す	→ 22ページ
サポート情報を表示する	→ 23ページ
ファームウェアバージョンを表示する	→ 23ページ
レシーバーのファームウェアをアップデートする	→ 23ページ

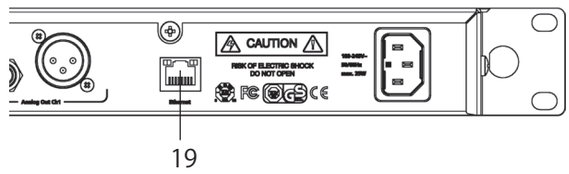
- ファンクションボタン（12）を押します。
- ファンクションボタン（12）が赤く点灯し、ディスプレー（8 ）が変わったら、ロータリースイッチ（10）を回してファンクションメニューの項目を選択し、ロータリースイッチ（10）を押して各設定画面を表示し、各機能の設定を行います。
  各設定では、ロータリースイッチ（10）を押して設定を確定すると、**“OK”** がディスプレーに表示されます。
- ESC ボタン（11）を使ってメニュー内での入力データを取り消すことができます。入力データは適用されず、元の設定に戻ります。

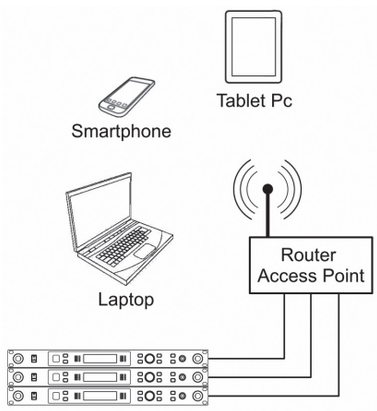
注意

- ロータリースイッチ（10）をしばらく操作しないでいると、ファンクションメニュー画面が自動的に消え、ホーム画面（8 ）に戻ります。
- ロータリースイッチ（10）を押して、確定しない設定は保存されません。

- 個々のメニューでは、画面右側にファンクションメニューを示す **“f”** が表示されます。

レシーバーをネットワークに接続する

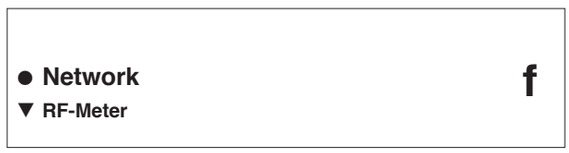




- レシーバーをネットワークに接続するときは、カテゴリー 5ケーブルを使って、イーサネット端子（19）経由で接続してから、レシーバーの電源を入れてください。
- ワイヤレスデバイス（タブレットPC、iPhone、iPadなど）を使うためには、Wi-Fiネットワークが必要です。
  DHCPサーバーを使って、レシーバーをスイッチやルーターに接続することができます。
  ネットワーク内で有効なDHCPサーバーが 1つ だけであることを確認してください。
  ルーターがWi-Fiネットワーク内のアクセスポイントとして動作している場合、レシーバーをWi-Fiデバイスにアクセスできます。

以下の操作で、レシーバー上でネットワーク関連の設定を行います。

1. ファンクションボタン（12）を押して、ディスプレー（8 ）にファンクションメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Network”** 項目を選択します。

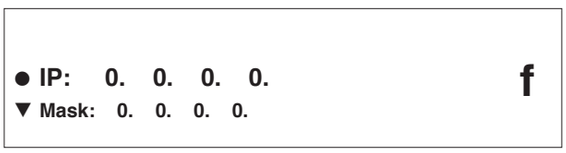


3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Network”** メニュー画面を表示します。
4. ロータリースイッチ（10）を使って、ネットワーク接続の各設定項目を設定します。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 16　14/01/21 14:10

IPアドレスの設定状況を表示する

“Network” メニュー画面の **“IP”** 項目では、レシーバーに割り当てられたIPアドレスを表示し、必要であればこれを変更することができます。



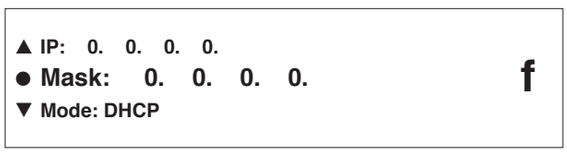
手動でIPアドレスを割り当てるには：

1. **“Network”** メニュー画面の **“Mode”** 項目を **“Manual”** に設定します。（→ 18ページ「IPアドレスの設定モードを設定する」）
2. **“Network”** メニュー画面を表示中にロータリースイッチ（10）を回して、**“IP”** 項目を選択します。
3. ロータリースイッチ（10）を押して、設定項目選択状態にします。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、IPアドレスの最初のバイトを設定します。

   設定範囲：0 ～ 255
5. ロータリースイッチ（10）を押して、IPアドレスの最初のバイト設定を確定します。
   次のバイトにカーソルが進みます。
6. ロータリースイッチ（10）を使って、4つのバイト全てを設定および確定します。
7. IPアドレスの設定を終えたら、ロータリースイッチ（10）を押してIPアドレスを確定します。

サブネットマスクの設定状況を表示する

“Network” メニュー画面の **“Mask”** 項目では、レシーバーに割り当てられたネットマスクを表示し、必要に応じて変更することができます。



ネットマスクは、レシーバーに設定されているIPアドレスから 本機が属するネットワーク構成を構築するためのマスク値です（自身のネットワークは、ルーターを通じて他のネットワークへの通信も可能となります）。
ネットマスクはIPアドレスをネットワークアドレス部とホストアドレス部に分離するもので、ネットワークアドレス部は同じネットワーク内に属する全ての機器が同じ値を割り当てられなければなりませんが、ホストアドレス部は全ての機器が異なる番号を割り当てられなければなりません。

手動でIPアドレスを割り当てるには：

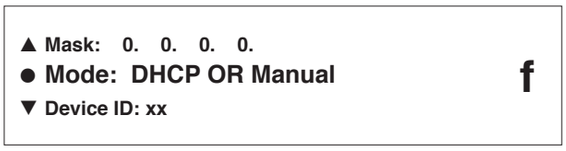
1. **“Network”** メニュー画面の **“Mode”** 項目を **“Manual”** に設定します。（→ 18ページ「IPアドレスの設定モードを設定する」）
2. **“Network”** メニュー画面を表示中にロータリースイッチ（10）を回して、**“Mask”** 項目を選択します。
3. ロータリースイッチ（10）を押して、設定項目選択状態にします。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、サブネットマスクIの最初のバイトを設定します。

   設定範囲：0 ～ 255
5. ロータリースイッチ（10）を押して、サブネットマスクの最初のバイト設定を確定します。
   次のバイトにカーソルが進みます。
6. ロータリースイッチ（10）を使って、4つのバイト全てを設定および確定します。
7. サブネットマスクの設定を終えたら、ロータリースイッチ（10）を押してサブネットマスクを確定します。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 17 14/01/21 14:10

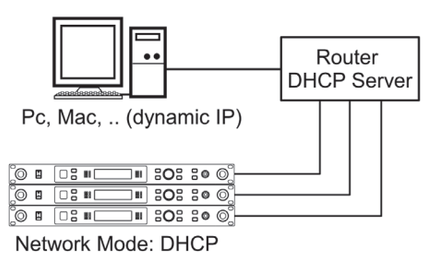
IP アドレスの設定モードを設定する

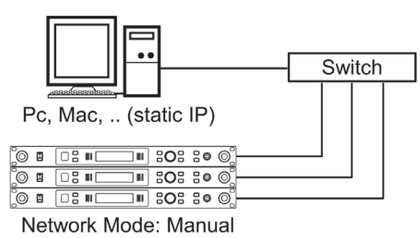
1. **“Network”** メニュー画面を表示中にロータリースイッチ（10）を回して、**“Mode”** 項目を選択します。



2. ロータリースイッチ（10）を押して、設定項目選択状態にします。
3. ロータリースイッチ（10）を回して、設定項目を選択します。
   選択肢：**“DHCP”**、**“Manual”**
4. ロータリースイッチ（10）を押して、IPアドレスの設定モードを確定します。

ネットワーク内では、DHCPサーバーを使ってスイッチとルーターの両方を使うことができます。
IPアドレスを正しく割り当てるために、ネットワーク内ではDHCPが1つ だけ有効であるようにしてください。
ルーターをDHCPサーバーと一緒に使う場合、 **“DHCP”** を選択します。
手動で設定を行うことなく、既存のネットワークにレシーバーを自動統合することができます。
レシーバーをスタートすると、IPアドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバー、（必要であれば）WINSサーバーを、DHCPサーバーから取得することができます。
自動割り当てでは、IPアドレスの範囲はDHCPサーバー上で決められています。この領域は、DHCPサーバーによってルーター内で設定されます。
アドレスがDHCPクライアントに割り当てられる範囲外の場合、DHCPサーバー（ルーター）内で「Lease　time（リース期間）」として定義される状態になります。これは、IPアドレスとMACアドレス間の割り当ての持続期間を決めるものです。
アクティブなDHCPサーバーがない状態でスイッチやルーターを使う場合、**“Manual”** を選択してください。
“Network” 画面の **“IP”** 項目で、IPアドレスを 手動で設定することができます。





デバイスIDを設定する

1. **“Network”** メニュー画面を表示中にロータリースイッチ（0 ）を回して、**“Device”** 項目を選択します。

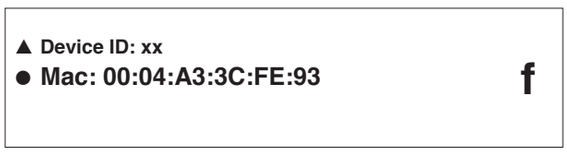
2. ロータリースイッチ（10）を押して、設定項目選択状態にします。
3. ロータリースイッチ（10）を押して、設定項目選択状態にします。
4. ロータリースイッチ（10）を回して、設定項目を選択します。
   選択範囲：**“1”** ～ **“99”**
5. ロータリースイッチ（10）を押して、デバイスIDを確定します。

メモ

- デバイスIDは、beyerdynamic　Chameleonソフトウェア 内でのデバイスの割り当てを決めるものです。beyerdynamic Cahmeleonソフトウェア の基本画面の中では、各デバイスがデバイスID番号順にラックに収納された状態で表示されます。
- デバイスIDの変更は、レシーバー上でのみ可能です。同じデバイスIDを2回割り当てないようにしてください。

MACアドレスを表示する

“Network” メニュー画面を表示中にロータリースイッチ（10）を回して、**“Mac”** 項目を選択します。
MAC（Media　Access　Control）アドレスを確認します。

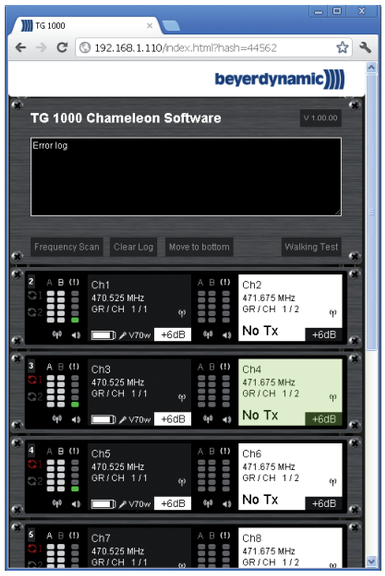


メモ

MACアドレスはレシーバー内に保存されていて、変更することができません。
各レシーバーは、異なるMACアドレスを持っています。つまり、DHCPサーバーを持つネットワーク内で、各レシーバーが異なるIPアドレスを持っているということになります。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 18　14/01/21 14:10

beyerdynamic　Chameleonソフトウェアを使う



各TG 1000 レシーバーは、それぞれのウェブページを持つウェブサーバーを内蔵しています。

TG 1000 レシーバーの設定とモニターを行うためには、特別なソフトウェアをインストールする必要はありません。必要なのは、ネットワーク接続環境とウェブブラウザを持つネットワーク互換のデバイス（クライアント）です。すなわち、TG 1000 システムをPC、Mac、タブレットPC、スマートフォンからコントロールすることができます。

マイクロソフトのInternet Explorerを使う場合、バージョン8.0以上であることを確認してください。

beyerdynamic Chameleonソフトウェア をスムーズに操作するには、TG 1000 レシーバーがネットワークに正しく接続されていなければなりません。正しく接続されているときは、マニュアルモードまたはDHCPモード （初期値）で操作することができます。マニュアルモードでは、接続されている各TG 1000 に対して、それぞれ異なるIPアドレスを 手動で割り当てなければなりません。割り当ては、サブメニュー **“Function”** -> **“Network”** から行います。DHCPモードでは、IPアドレスがDHCPサーバーによって割り当てられます。通常はDHCPサーバーが各ルーター内に組み込まれています。DHCPモードを使用しない場合、通常のイーサネットスイッチがネットワーキングを行います。この場合、レシーバーはマニュアルモードで操作されなければなりません。このネットワークでは、DHCPサーバーがないので、クライアントデバイスがスタティックなIPアドレスを受信しなければなりません。

beyerdynamic Chameleonソフトウェア をクライアントデバイスと一緒に使うために、いずれのTG 1000 レシーバーともリンクすることができます。これを行うには、レシーバーのIPアドレス（例：**“192.168.1.101”**）を使用中のウェブブラウザに入力しなければなりません。レシーバーのIPアドレスは、サブメニュー **“Function”** -> **“Network”** に表示されています。どのレシーバーとも接続することができます。

ウェブページの送信に成功すると、beyerdynamic Chameleon ソフトウェアの基本画面がブラウザ画面に表示されます。ここにはバーチャルのラック内に全てのレシーバーのパネル全体が表示されます。表示されるレシーバーの順番は、レシーバーのサブメニュー **"Function”** -> **“Network”** で選択されるデバイスIDによって決まります。各レシーバーには異なるデバイスIDを割り当てなければなりません。レシーバーはデバイスIDの昇順に表示されます。

Frequency Scan

- ある周波数レンジ内での周波数選択は、周波数スキャンから行うことができます。この操作の中で周波数ごとに干渉があるかどうかを確認することができます。
- 《Frequency Scan 》ボタンを選択します。
- 測定間隔を100kHz、200kHz、500kHzの中から選ぶことにより、スキャンのリゾリューションを選択します。
- 開始周波数と停止周波数を入力します。この周波数の間でスキャンが行われます。
- スキャンを行うチャンネルを選択します。スキャンを行っているチャンネルは受信ができませんが、他のチャンネルはオーディオ信号を受信できます。画面内のチャンネル表示（CH1またはCH2）の手前に、デバイスIDが表示されています。
- 《Start 》ボタンを選択します。
- スキャンニングメッセージが表示されます。

- スキャンによって、選択中の周波数レンジのRF信号が表示されます。これらの信号はマイク信号か、あるいはDVB-Tチャンネルによって引き起こされる干渉です。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 19　14/01/21 14:10

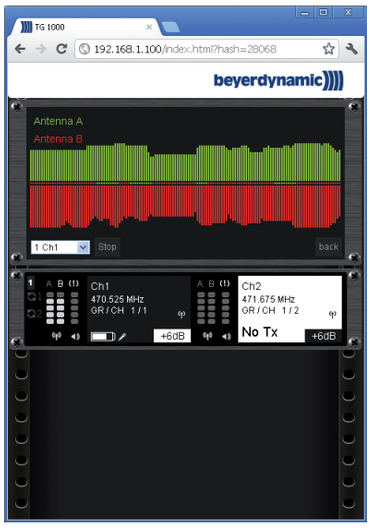
Clear Log

● 《Clear Log》 ボタンを選択すると、画面内のメッセージをクリアーします。

Move to Bottom / Top

● 《**Move to Bottom**》ボタンまたは《Move to Top》 ボタンを選択すると、ディスプレーの位置を変更することができます。

Walking Test



Walking Test機能は、ポータブルデバイスを使ってステージ上で受信に問題がある場所を見つけるときに使います。また、アンテナの問題を確認することもできます。

1. 《Walking Test》 ボタンを選択します。
2. **“Select Device”** のしたチャンネルを選択します。
3. 《Start》 ボタンを選択します。
   両方のアンテナ信号が表示されます。デッドポイントでは、信号の長さが短く表示されます。

● 中央にある帯はダイバシティ情報で、現在アクティブなアンテナが表示されます。

レシーバーの設定

● beyerdynamic Chameleonソフトウェア では、レシーバーの設定を変えることができます。変更は、直接デバイスに反映されます。また、全てのステータスメッセージはレシーバー側にも表示されます。トランスミッターとレシーバーを再び同期する必要があるとき、同期LEDが赤く点灯します。

● レシーバーのチャンネルウィンドウを選択して、チャンネルメニューに入ります。

● 以下の設定を行うことができます。

表示	内容
Name	アーティスト名を入力することができます。
RF Power	トランスミッターのパワーを設定することができます。
Battery	トランスミッターにセットしている電池に応じて、アルカリ乾電池またはニッケル水素電池を選択することができます。
Encryp	暗号化を有効にするか無効にするかを選択することができます。
Power Lock	トランスミッターのパワーロック機能を有効にするか無効にするかを選択することができます。
Freq MHz	周波数を手動で入力することができます。
Group/Channel	レシーバーに保存されている選択中のグループ内のチャンネルを選択することができます。
Di.Gain	**“Digital Gain”** を設定でることができます。
Boost	**“Analog Out”** のブーストを設定することができます。

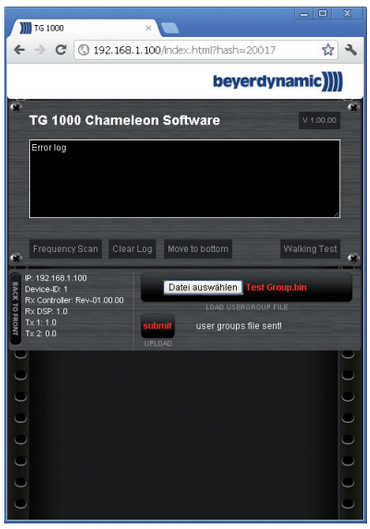
● 各設定の詳細については、12ページ「メニュー画面を使う」をご覧ください。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 20 14/01/21 14:10

● レシーバーのフロントビューに戻るには、《**BACK TO FRONT**》ボタンを選択します。

デバイス画面

● レシーバーのデバイスIDをクリックすると、IPアドレス、デバイスID、レシーバーコントローラーとDSPのファームウェア、トランスミッターのファームウェア（トランスミッターがアクティブのとき）などの詳しいデバイス情報が表示されます。



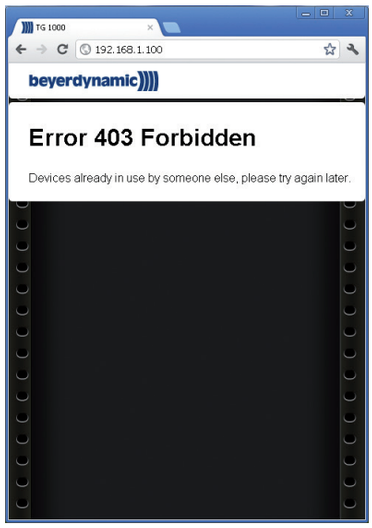
メモ

本取扱説明書に記載のbeyerdynamic　Chameleonソフトウェアの画面構成は、今後のバージョンアップ時に予告なく変更される場合がございます。予めご了承ください。

アクセス制限

● 安全上の理由から、ソフトウェアに接続できるのは1クライアントのみ、というアクセス制限があります。

● 他のクライアントがソフトウェアに接続しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

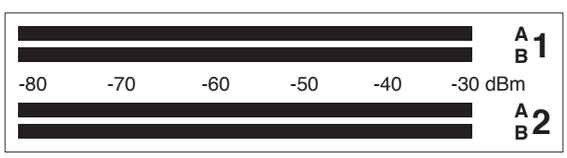


RFレベルを表示する

トランスミッターの電源がオンのとき、両チャンネルのRFレベルを表示することができます。
以下の操作を行います。

1. ファンクションボタン（12）を押して、ディスプレー（8 ）にファンクションメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“RF-Meter”** 項目を選択します。

3. ロータリースイッチ（10）を押して、RFメーター画面を表示します。
   両チャンネルのRFレベルがバー表示されます。



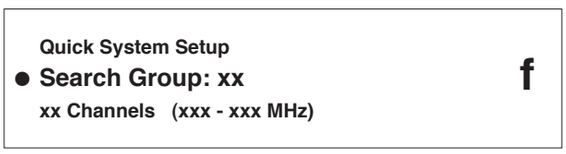
J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 21　14/01/21 14:10

ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する

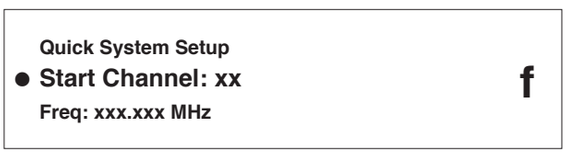
Quick System Setup機能を使って、ネットワーク内の全チャンネルの周波数を選択します。
以下の操作を行います。

1. ファンクションボタン（12）を押して、ディスプレー（8 ）にファンクションメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Quick System Setup”** 項目を表示します。

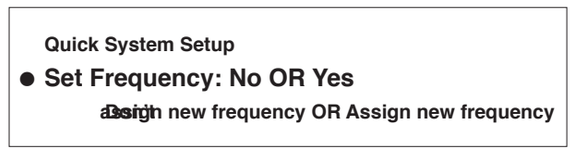
3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Quick System Setup”** 画面の **“Search Group”** 項目を表示します。
“Quick System Setup” 画面下部に、グループ内のチャンネルの数が表示されます。



4. ロータリースイッチ（10）を回して、スキャンを開始するグループを選択します。
5. ロータリースイッチ（10）を押して、選択したグループを確定します。
“Quick System Setup” 画面に **“Search Channel”** 項目が表示されます。
6. ロータリースイッチ（10）を回して、選択したグループからスキャンを開始するチャンネルを選択します。
“Quick System Setup” 画面下部に、選択したチャンネルの周波数が表示されます。



7. ロータリースイッチ（10）回して、チャンネルを選択します。
8. ロータリースイッチ（10）を押して、選択したチャンネルを確定します。
“Quick System Setup” 画面に **“Scanning”** が表示され、スキャンを開始します。
ネットワーク内の全レシーバーに対して割り当てられるだけのチャンネルが見つかると、スキャンが自動的に終了します。
チャンネルが足りない場合は、状況に応じたメッセージが表示されます。
周波数がネットワーク内の全てのレシーバーに送られると、**“Frequency setting sent”** が表示されます。
9. スキャン終了後、**“Quick System Setup”** 画面に **“Set Frequency”** 項目が表示されます。



10. ロータリースイッチ（10）を回して、見つかった周波数を割り当てるかどうかを選択します。
選択肢：
“No”（チャンネルの既存の周波数を維持します）
“Yes”（チャンネルの既存の周波数が上書きされます）
11. ロータリースイッチ（10）を押して、周波数を確定します。

メモ

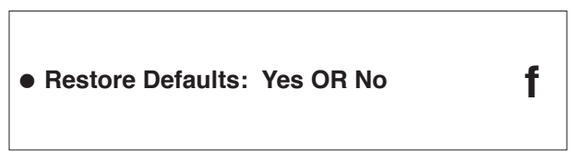
- いかなる場合でも、**“Quick System Setup”** 機能をスタートした1台目のレシーバーには見つかった周波数が割り当てられます。
- **"Quick System Setup”** 機能を実行した後は、再度トランスミッターを同期してください。（→ 25ページ「同期」）

出荷時の設定に戻す

レシーバーのバックアップメモリーに保存されている各種設定情報を、工場出荷時の設定に戻すことができます。
以下の操作を行います。

1. ファンクションボタン（12）を押して、ディスプレー（8 ）にファンクションメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Factory Reset”** 項目を選択します。

3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“Restore Defaults”** 画面を表示します。



4. ロータリースイッチ（10）を回して **“Yes”** を選択します。
5. ロータリースイッチ（10）を押して、場出荷時の設定に戻します。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 22 14/01/21 14:10

サポート情報を表示する

本機のサポート情報を表示するには、以下の操作を行います。

1. ファンクションボタン（12）を押して、ディスプレー（8 ）にファンクションメニューを表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Help”** 項目を選択します。

3. ロータリースイッチ（10）を押して、**“SUPPORT”** 画面を表示します。

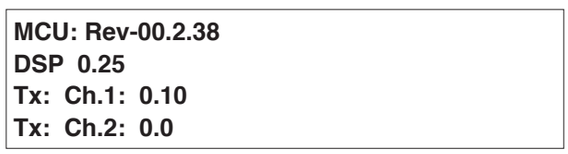
国別のテクニカルサービスの連絡先やTG 1000 ヘルプセンターのウェブアドレスなどのサポート情報が表示されます。
スマートフォンをお持ちの場合は、**“SUPPORT”** 画面右側のQRコードをスキャンすることによって 、詳しい情報を得ることができます。

ファームウェアバージョンを表示する

本機のファームウェアのバージョンを表示して確認することができます。
以下の操作を行います。

1. ファンクションボタン（12）を押して、ディスプレー（8 ）にファンクションメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Version Info”** 項目を選択します。

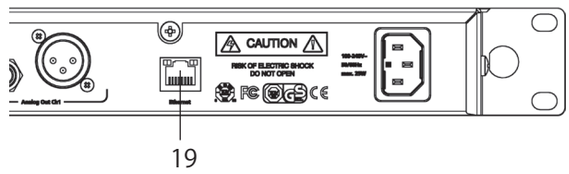
3. ロータリースイッチ（10）を押して、ファームウェアバージョン画面を表示します。
   レシーバーとトランスミッターの現在のファームウェアバージョンが表示されます。



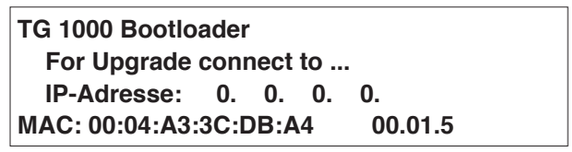
メモ

必ずトランスミッターの電源を入れた状態で行ってください。

レシーバーのファームウェアをアップデートする



19



本機は、ネットワーク経由の「ブートローダー」によって、レシーバーのファームウェアをアップデートすることができます。
以下のメニュー操作を行います。

- レシーバーの最新のファームウェアを、以下のサイトからダウンロードします。
  www.beyerdynamic.com/tg1000/help
- カテゴリー 5ケーブルを使って、レシーバーを イーサネット端子（19）経由でパソコンに接続します。
- 「ブートローダーモード」にするには、ロータリースイッチ（10）を押しながら、レシーバーの電源をオンにします。
- ファンクションボタン（12）を押すと、ネットワーク設定の確認／変更を行うことができます。（→ 16ページ「レシーバーをネットワークに接続する」）
- レシーバーに表示されているIPアドレスをインターネットブラウザに入力します。
- インターネットブラウザ内にページが開き、新しいファームウェアをファイルとしてレシーバーにロードすることができます。
- **“Select file”** ボタンを選択し、開いたウィンドウからファイルを選択します。
- **“Submit”** ボタンを選択して確定します。
- レシーバーのディスプレー（8 ）に送信状況が表示されます。
  レシーバーへの送信が完了すると、パソコン上にメッセージ《**Upgrade successful**》が表示されます。
- レシーバーの電源をオフにした後にオンにすると、ファームウェアのアップグレードが始まります。
- レシーバーのディスプレー（8 ）に **“Rx Firmware Upgrading”** が表示されます。
- ディスプレーが **“Upgrade successful”** に変わったら、再度、電源をオフにしてからオンにするとファームウェアのアップデートは完了となります。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 23 14/01/21 14:10

トランスミッターのファームウェアをアップデートする

トランスミッターのファームウェアアップデートは、以下の操作を行います。

1. ファンクションボタン（12）を押して、ディスプレー（8 ）にファンクションメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Tx Upgrader”** 項目を表示します。

3. ロータリースイッチ（10）を押して、トランスミッターのファームウェアアップデート画面を表示します。

4. ロータリースイッチ（10）を押して、トランスミッターのファームウェアアップデートを開始します。
   ディスプレー（8 ）に表示される指示にしたがい、確定が必要なときにはロータリースイッチ（10）を押します。

リージョンコードを表示する

リージョンコードを表示するには、以下の操作を行います。

1. ファンクションボタン（12）を押して、ディスプレー（8 ）にファンクションメニュー画面を表示します。
2. ロータリースイッチ（10）を回して、**“Region Code: A”** 項目を表示します。

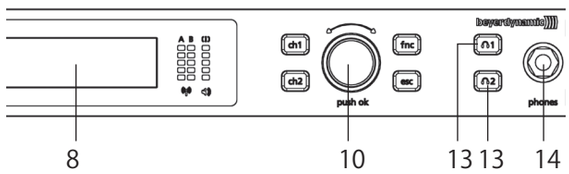
3. ロータリースイッチ（10）を押して、現在設定されているリージョンコードを表示します。

メモ

日本国内版は、RegionEのみ表示されます。

Region　Code：**“E”**

モニタリング



- ヘッドホンを使ってチャンネル1または2をモニターすることができます。
- ヘッドホンをレシーバーのヘッドホン端子（14）に接続します。
- チャンネル1または2をモニターするには、該当する モニターボタン（13）を押します。
  モニター機能が動作中、該当モニターボタンが赤く点灯します。
- ヘッドホンメニューで、ロータリースイッチ（10）を使ってボリュームを–33 ～+36dBの範囲（3dBステップ）で調節できます。

注意

ボリュームを上げすぎないでください。聴覚障害を起こす可能性があります。

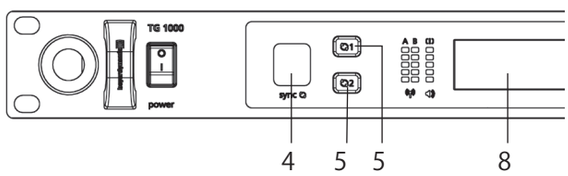
- ボリューム値がディスプレー（8 ）に表示されます。
- しばらくすると、ディスプレー（8 ）がホーム画面に戻ります。ホーム画面に戻ってもモニター機能およびヘッドホン出力は有効です。
- モニター機能を止めるには、動作中のモニターボタン（13）を再度押します。
  ディスプレー（8 ）に **“OFF”** が表示され、モニター機能およびヘッドホン出力が停止します。

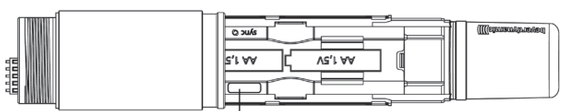
注意

- 大きな音量で長時間聞き続けると、聴覚に障害を引き起こす恐れがあります。聴覚障害は回復不可能です。使用前に必ずボリュームを下げてください。
- ボリュームが大きすぎないよう常に気を付けてください。
- ボリュームを大きくして聴く場合は時間を短くしてください。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 24　14/01/21 14:11

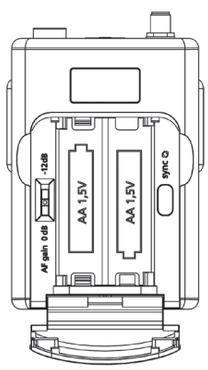
同期





ハンドヘルドトランスミッター

5



10

ベルトパックトランスミッター

- レシーバーは、チャンネルの周波数やその他の設定（暗号化、パワーロックなど）を、赤外線インタフェース経由でトランスミッターに送信することができます。
- 設定をトランスミッターに送信するためには、レシーバーのチャンネル1（Q1）またはチャンネル2（Q2）の同期ボタン（5）を押します。
- 各トランスミッターの電池ケース部内に赤外線インタフェース（4、10）があります。
- 同期ボタン（5）が赤く点灯しているとき、電源スイッチをオンにしたトランスミッターの電池ケース部のカバーを開き、中の赤外線インタフェース（ハンドヘルドトランスミッターは（5）、ベルトパックトランスミッターは（10））をレシーバーの赤外線インタフェース（4）の前に近づけます。
- ディスプレー（8）に **“SYNC successful”** が表示されたら、同期が完了です。周波数、その他の設定がトランスミッターに正しく送信されたことになります。

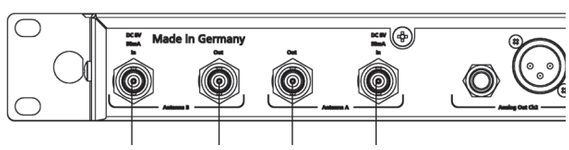
同じチャンネル上の2台のトランスミッターを同期する方法

- ハンドヘルドトランスミッターの電源ボタン（7）またはベルトパックトランスミッターの電源ボタン（3）を約8秒間押し続けて、**“RF off”** モードにします。この状態では、メインのトランスミッターが動作中であっても、同じチャンネル上のスペアのトランスミッターを同期することができます（同期操作中であっても、オーディオの送信は行われます）。
- 上記の手順にしたがってスペアのトランスミッターを同期します。
- **“RF off”** モードを終了するには、トランスミッターの電源をオフにしてから再度オンにします。

メモ

スペアのトランスミッターの電源をオフにしてから再度オンにする前に、メインのトランスミッターの電源をオフにしてください。
オンのままだと、2台のトランスミッターが同時に同じ周波数で動作することによってチャンネルが干渉する可能性があります。

マルチチャンネルの操作（複数台のTG 1000　レシーバーをカスケードして使用）



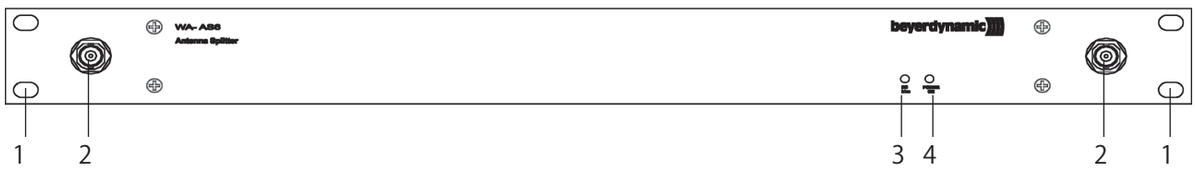
- レシーバーには、アクティブタイプのアンテナスプリッターが内蔵されています。
- 2本のアンテナを使ってマルチチャンネル操作を行う場合、最大8台のレシーバー（16チャンネル）を接続することができます。
- アンテナを1台目のレシーバーのアンテナ入力（17）に接続します。
- 2台目のレシーバーのアンテナ入力（17）を1台目のレシーバーのアンテナ出力（17）に接続し、3台目のレシーバーのアンテナ入力（18）を2台目のレシーバーのアンテナ出力（18）に接続します。以下、同様に接続します。
- WA-CKL接続ケーブル（別売）を使ってください。
- アンテナ信号が供給されるように、全てのレシーバーの電源をオンにしてください。
- 大規模なマルチチャンネルシステムを構築する場合、別売アクセサリーのWA-AS6　6系統アンテナスプリッター を使用することをお勧めします。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 25　14/01/21 14:11

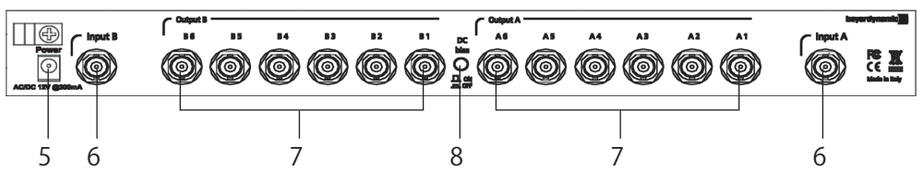
WA-AS6　6系統アンテナスプリッター（別売アクセサリー）

コントロールとインジケーター

フロントパネル



リアパネル



1　19インチラック取り付け用穴
2　アンテナ取り付け用入力端子（BNC）
3　DC電圧ステータスLED
4　電源LED
5　DC電源接続端子
6　アンテナ入力A、B（BNC）
7　アンテナ出力A、B（BNC）
8　アンテナ増幅器へのDC電圧供給のオン／オフボタン

一般情報

- WA-AS6　6系統アンテナスプリッター は、470　～ 790MHzの周波数レンジで動作する6ウェイのワイドバンド型アンテナスプリッターです。
- WA-AS6　6系統アンテナスプリッター が1台あれば、（カスケード接続された）最大72台の TG 1000 ダイバシティレシーバーを2本のアンテナで動作させることができます。
- ダイバシティ操作用として、WA-AS6　6系統アンテナスプリッター は2つのアンテナ入力を装備し、それぞれが6系統のアンテナ出力に分配されます。直接あるいはリモート接続されているアンテナを使って操作が可能です。
- 両アンテナ入力は、アクティブなアンテナまたはアンテナ増幅器を動作させるための電圧を供給します。
- DC電圧ステータスLED（ 3 ）は接続されているアンテナ増幅器に電源が供給されているときに点灯します。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 26　14/01/21 14:11

取り付けとインストール

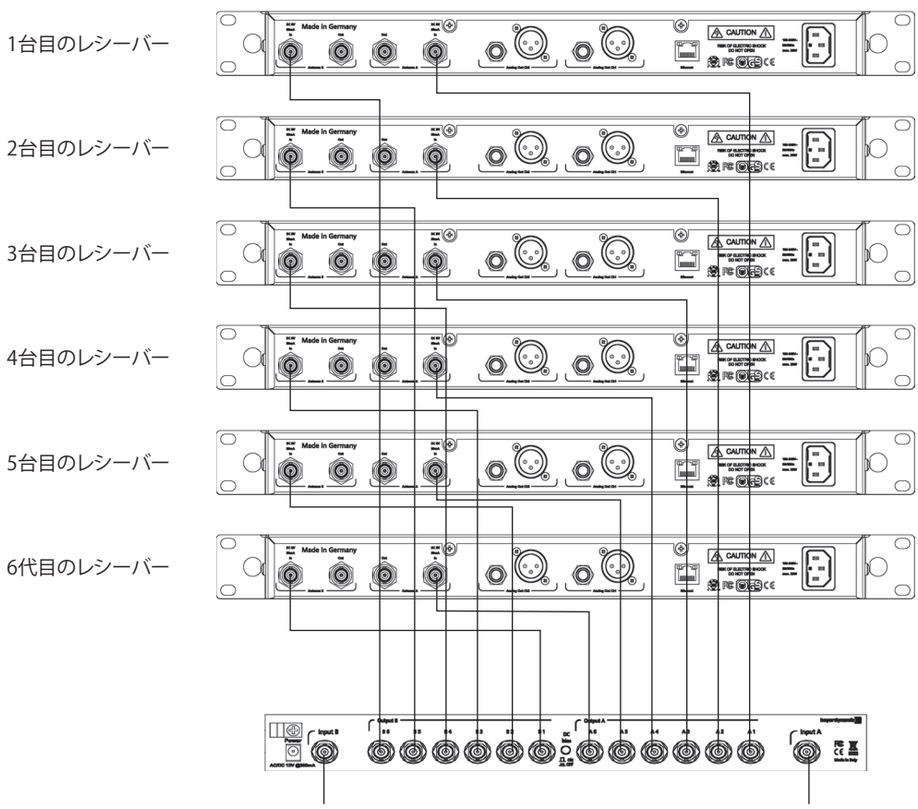
- WA-AS6　6系統アンテナスプリッター には、19インチラックへ組み込むための 19インチラック取り付け用穴 （1 ）がパネルの左右に用意されています。
- WA-ATD指向性アンテナ、またはWA-ATO全方向性アンテナを、アンテナ入力AおよびB（　6 ）に接続します。
- BNCパッチケーブル（WA-CKL）を使って、アンテナスプリッターのアンテナ出力をレシーバーのアンテナ入力に接続します。
- 付属のパワーサプライユニットを電源コンセントとDC電源接続端子（ 5 ）に接続します。アンテナスプリッターには電源スイッチがなく、電源に接続された時点で動作可能になります。電源LED（ 4 ）が点灯します。
- WA-AMPアンテナ増幅器を使う場合､アンテナスプリッターのリアパネルにある､アンテナ増幅器へのDC電圧供給の　オン／オフボタン（8 ）をオンにしてください。DC電圧ステータスLED（ 3 ）が点灯します。

注意

オン／オフボタン（8 ）を押すと、DC電圧供給がオフになります。

メモ

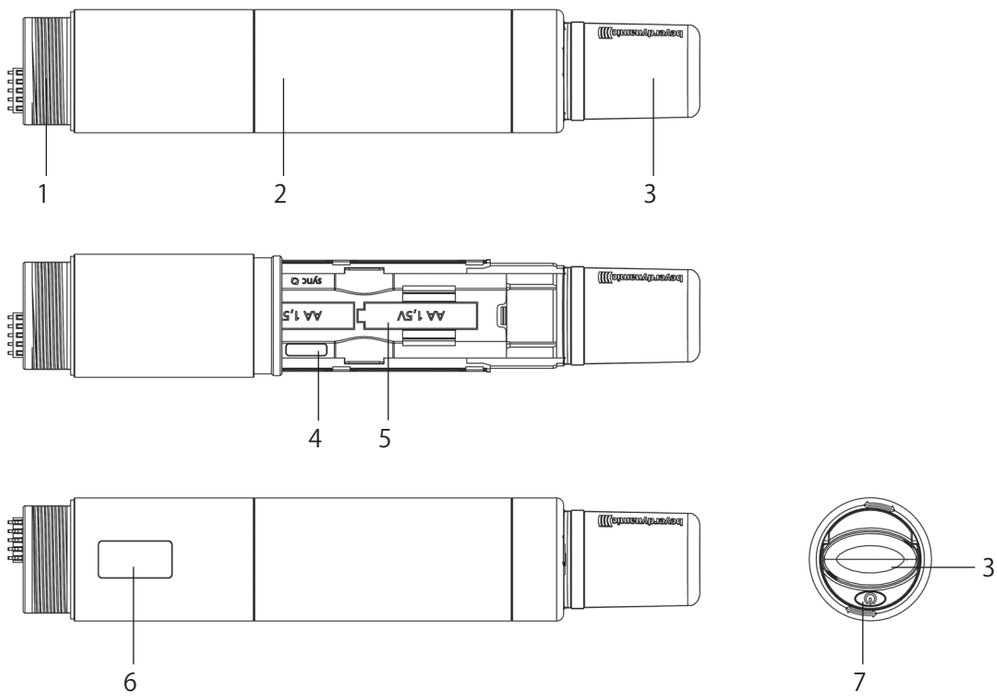
- アンテナ接続端子には、DC8Vの電圧がかかっています。短絡を避けるために、ラックのハウジングに触れないようにしてください。
- beyerdynamic社のWA-ACアンテナケーブルをお使いください。ケーブルが長いほど、高域周波数信号の減衰が大きくなります。
- リモートアンテナの接続には、beyerdynamic社のWA-ACアンテナケーブルをお使いください。ケーブルが長いほど、RF信号のロスが大きくなります。
- アンテナおよびアンテナスプリッターは、必ず純正のオプション品（WA-ATD、WA-ATO、WA-AS6）ご使用ください。
- 複数台のTG　1000　ダイバシティレシーバーをカスケード接続すると、アンテナスプリッターを使って大規模なマルチチャンネルシステムを作ることができます。



J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 27　14/01/21 14:11

第3 章　TG 1000　UHF ハンドヘルドトランスミッター

各部の名称



1　マイクカプセル取り付け用ネジ
2　電池ケース部カバー
3　アンテナ
4　赤外線インタフェース
5　電池ケース部
6　ディスプレー
7　電源ボタン

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 28　14/01/21 14:11

マイクカプセルの取り付け方法

TG 1000 ハンドヘルドトランスミッター用に、さまざまなコンデンサーあるいはダイナミックタイプのマイクカプセルが用意されています。詳細は、38ページ「第7章　別売アクセサリー」 をご覧ください。

- ハンドヘルドトランスミッターのマイクカプセル取り付け用ネジ（1 ）に希望のマイクカプセルを載せ、時計回りに締め付けます。
- マイクカプセルを交換する場合、マイクカプセルを反時計回りに回してトランスミッターから外します。
- マイクカプセルを交換するとき、事前にハンドヘルドトランスミッターの電源をオフにしてください。

TG V50w

単一指向性ダイナミックマイクカプセルで、ボーカルに最適です。
ピックアップエリアが非常に広く、フィードバックに強いです。

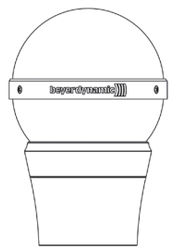
TG V56w

単一指向性コンデンサーマイクカプセルで、ソロシンガーや会議、スピーチなどの用途に最適です。
トレブルを少しブーストしていますので、フィードバックに強いです。

TG V70w

超指向性ダイナミックマイクカプセルで、ボーカルに最適です。
パワフルなサウンド。
フィードバックに非常に強いです。

TG V90w



単一指向性ダイナミックリボンマイクカプセルで、ボーカルに最適です。
クリアーでナチュラルなサウンド。
フィードバックに強いです。

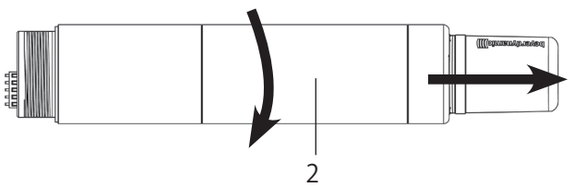
TG V96w

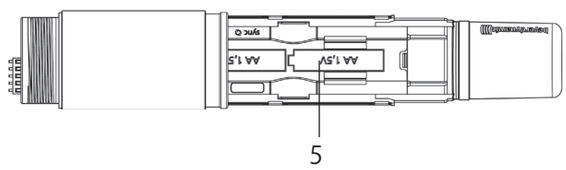
単一指向性コンデンサーマイクカプセルで、ボーカルに最適です。
色づけのないサウンド。
トレブルを少しブーストしたオープンで控えめなサウンドが特徴です。
フィードバックに強いです。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 29　14/01/21 14:11

第3章　TG 1000　UHF ハンドヘルドトランスミッター

電池をセットする



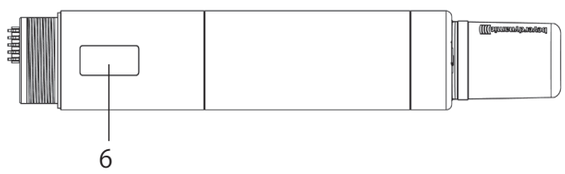


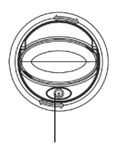
1. 電池ケース部カバー（2 ）を反時計回りに回します。
2. 電池ケース部カバー（2 ）をアンテナ側にスライドします。
3. 電池ケース部（5 ）の表示に合わせて、単3形電池（アルカリ乾電池またはニッケル水素電池）2本をセットします。
4. 電池ケース部カバー（2 ）を上側スライドし、時計回りに回して締めます。
5. 現在の電池の状況がハンドヘルドトランスミッターのディスプレー（6 ）およびレシーバーのディスプレー（8 ）に表示されます。

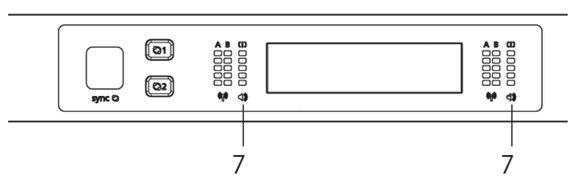
メモ

- 同期を行う前に、メニュー画面の**“Battery”** 項目で使用する電池の種類が正しく設定されていることを確認してください。（→14ページ「電池の種類の設定（Battery）」）
- 電池残量が少なくなると、ハンドヘルドトランスミッターのディスプレー（6 ）に空の電池マークが点滅します。この場合は、直ちに新しい電池と交換してください。

ハンドヘルドトランスミッターの操作方法



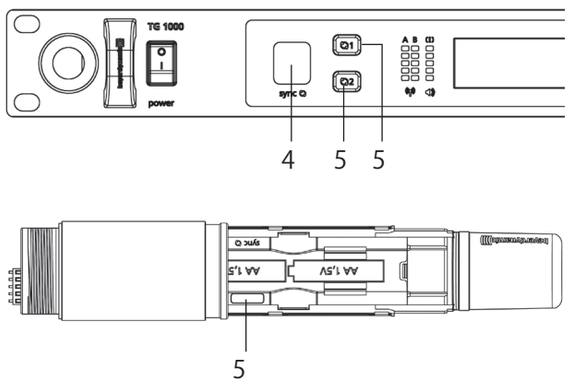




- ハンドヘルドトランスミッターのディスプレー（6 ）にホーム画面が表示されるまで電源ボタン（7 ）を押し続けて、ハンドヘルドトランスミッターの電源をオンにします。
- ハンドヘルドトランスミッターのディスプレー（6 ）に電池残量と名前（レシーバーのディスプレー（8 ）の1行目に入力した名前）が表示されます。
- 2行目に、チャンネルと周波数グループまたは周波数が設定に応じて表示されます。
  ハンドヘルドトランスミッターの電源ボタン（7 ）を押すと、2行目に以下の詳細情報が順次表示されます。
  詳細情報：RFパワー、電池残量、マイクカプセル、暗号化ステータス、パワーロック機能の設定状態
- 電源がオンのときに電源ボタン（7 ）を押したままにすると、リージョンコードとバージョン番号が表示されます。
- トランスミッターとレシーバーが同じ周波数で動作していることを確認してください。
- ハンドヘルドトランスミッターは、広いダイナミックレンジを持っています。そのため、レベルを設定するスイッチがありません。低い信号に対しては、レシーバーの **“Digital Gain”** を上げることによって、オーディオレベルを上げることができます。詳しくは、13ページ「デジタルゲインを設定する（Digital Gain）」 をご覧ください。
- トランスミッターの電源をオフにするには、ハンドヘルドトランスミッターのディスプレー（6 ）に **“Off”** が表示されるまで、電源ボタン（7 ）を押し続けます。
- パワーロック機能が有効な場合、ハンドヘルドトランスミッターの電源をオフにすることができません。この場合、ディスプレーに **“Power Locked”** が表示されるまで、電源ボタン（7 ）を押し続け、ボタンを放して、ディスプレーに **“Off”** が表示されるまで、再度ボタンを押し続けます。以上の操作によって、ハンドヘルドトランスミッターの電源をオフにすることができます。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 30　14/01/21 14:11

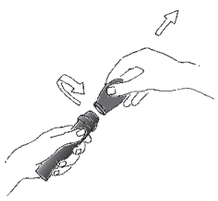
同期／受信した周波数をトランスミッターに送信する方法



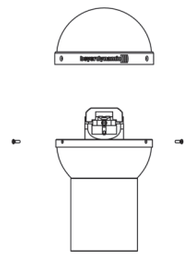
- 周波数その他のレシーバー設定をトランスミッターに送信するには、レシーバーのチャンネル1（Q1 ）あるいはチャンネル2（Q2 ）の同期ボタン（5 ）を押します。
- トランスミッターの電池ケース部の中に、赤外線インタフェース（4 ）があります。
- 同期中、電源の入っているトランスミッターの電池ケース部を開けて、赤外線インタフェース（4 ）を直接レシーバーの赤外線インタフェース（4 ）の正面に向けます。
- 同期が終了すると、ディスプレー（8 ）に **“SYNC successful”** が表示されます。

メンテナンス

- ハンドヘルドトランスミッターを湿気や衝撃から守ってください。また、トランスミッターを落とさないでください。
- 金属表面を拭く場合は、変性アルコールまたはアルコールを含ませた柔らかい布で拭いてください。
- マイクのサウンドが鈍ってきた場合、以下の手順にしたがって直ちにポップシールドを掃除してください。
  - マイクグリルを反時計回りに回します。

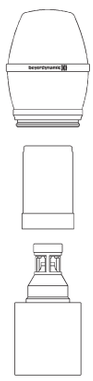


TG V90wの場合は、小さなネジを取り外してから マイクグリル上部を回します。



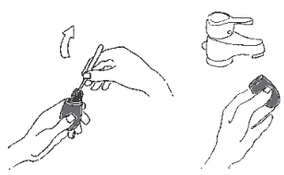
[TG V90wの場合]

TG V96wの場合は、 マイクグリルを取り外してからワイヤーメッシュ・ポップシールドを取り外して掃除してください。



[TG V96wの場合]

- スポンジのポップシールドを取り出します。必要であればピンセットを使い、きれいな流水で洗います。

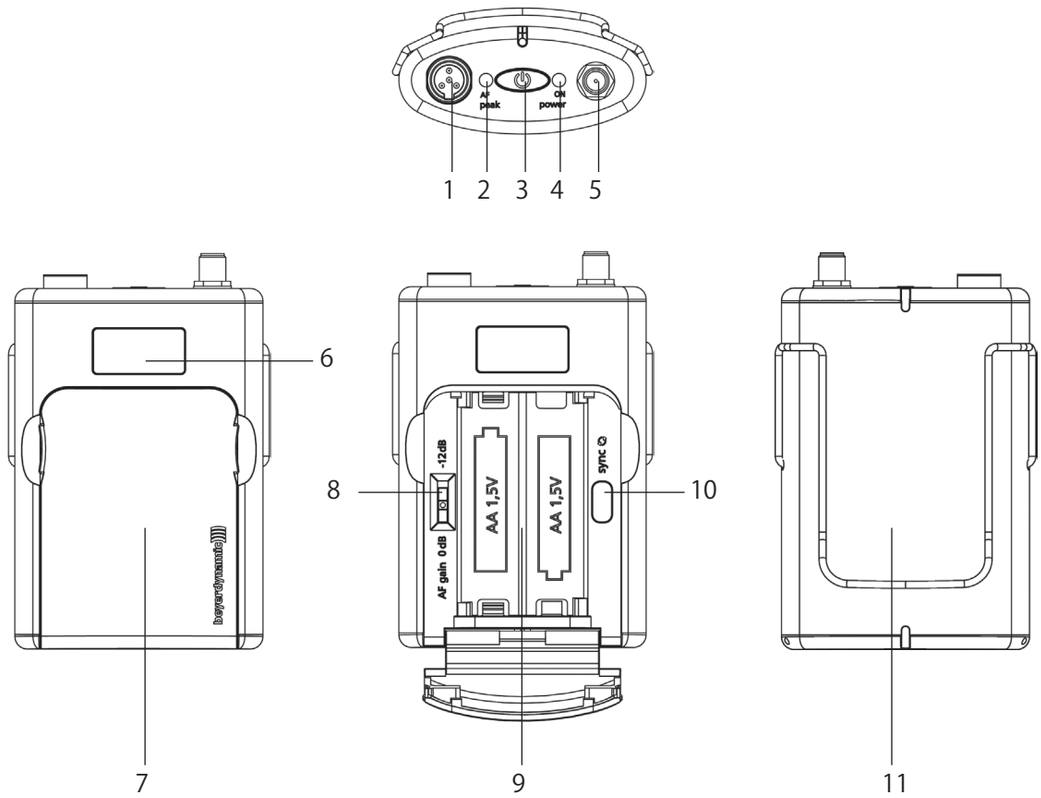


- 必要であれば、中性洗剤など刺激の弱い洗剤をご使用ください。
- 洗浄後、ヘアドライヤーを使って乾かすか、あるいは自然乾燥させます。
- マイクグリルの内部と外部を洗います。軽く濡らした布を使うか、あるいは柔らかいブラシを使って流水の下で洗います。洗浄後、自然乾燥させます。
- マイクグリルは、食器洗い機で洗わないでください。
- 乾いたポップシールドをマイクグリルの内部に入れ、マイクグリルを時計回りに回して元に戻します。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 31　14/01/21 14:11

第4章　TG 1000　UHF ベルトパックトランスミッター

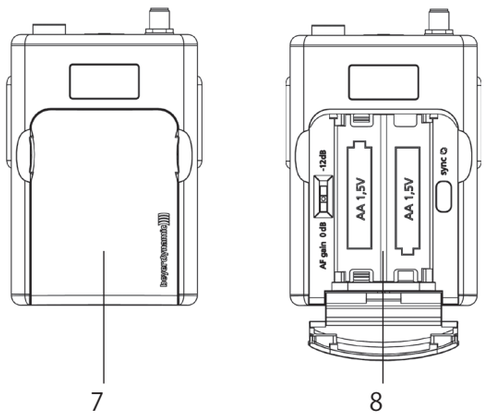
各部の名称



1　4ピン ミニXLRコネクター（マイク／楽器接続用端子）
2　AFピークインジケーター
3　電源ボタン
4　電源ONオンインジケーター
5　アンテナコネクター（SMAソケット）
6　ディスプレー
7　電池ケース部カバー
8　ゲインスイッチ（0dB ／ –12dB）
9　電池ケース部
10　赤外線インタフェース
11　ベルトクリップ

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 32　14/01/21 14:11

電池をセットする

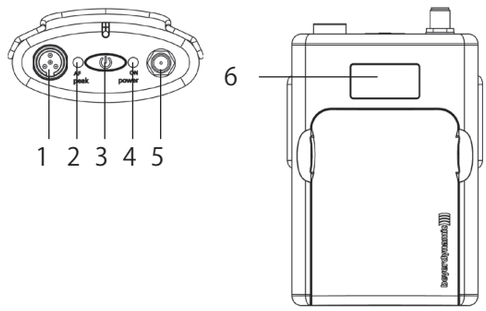


1. 電池ケース部カバー（7 ）を左右のくぼみの部分を持ちます。
2. 電池ケース部カバー（7 ）を下側に開きます。
3. 電池ケース部（5 ）の表示に合わせて、単3形電池（アルカリ乾電池またはニッケル水素電池）2本をセットします。
4. 電池ケース部カバー（7 ）を上に上げて閉めます。
   マグネットの働きによってキッチリと閉じることができます。
5. 現在の電池の状況がトランスミッターのディスプレー（6 ）およびレシーバーのディスプレー（8 ）に表示されます。

メモ

- 同期を行う前に、メニュー画面の**“Battery”** 項目で使用する電池の種類が正しく設定されていることを確認してください。（→14ページ「電池の種類の設定（Battery）」）

ベルトパックトランスミッターの操作方法

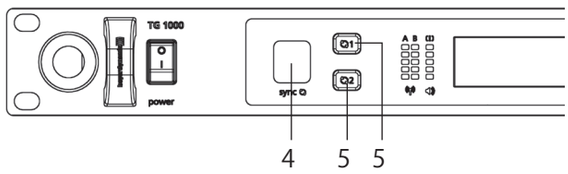


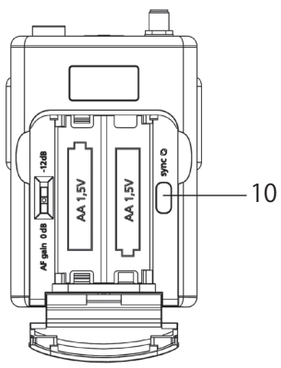
- マイクまたはWA-CGI楽器ケーブルを 4ピン　ミニXLRコネクター（1 ）に接続します。
- SMAコネクターの付いた付属のアンテナを、 アンテナコネクター（5 ）に接続します。
- ディスプレー（6 ）にホーム画面が表示されるまで電源ボタン（3 ）を押し続けて、ベルトパックトランスミッターの電源をオンにします。電源ONインジケーター（4 ）が緑色に点灯します。
- ディスプレー（6 ）に電池残量と名前（レシーバーのディスプレー（8 ）の1行目に入力した名前）が表示されます。
- 2行目に、チャンネルと周波数グループまたは周波数が設定に応じて表示されます。電源ボタン（3 ）を短く押していくと、2行目に以下の詳細情報が順次表示されます。

  詳細情報：RFパワー、電池残量、マイクカプセル、暗号化ステータス、パワーロック機能の設定状態
- 電源がオンのときに電源ボタン（3 ）を押したままにすると、リージョンコードとバージョン番号が表示されます。
- トランスミッターとレシーバーが同じ周波数で動作していることを確認してください。
- トランスミッターの電源をオフにするには、ディスプレー（6 ）に **“Off”** が表示されるまで、電源ボタン（3 ）を押し続けます。
- パワーロック機能が有効な場合、ベルトパックトランスミッターの電源をオフにすることができません。この場合、ディスプレー（6 ）に **“Power Locked”** が表示されるまで、電源ボタン（3 ）を押し続け、ボタンを放して、ディスプレー（6 ）に **“Off”** が表示されるまで、再度ボタンを押し続けます。以上の操作によって、ベルトパックトランスミッターの電源をオフにすることができます。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 33　14/01/21 14:11

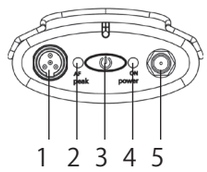
受信機で設定した周波数やその他のセッティングをトランスミッターに送信する方法

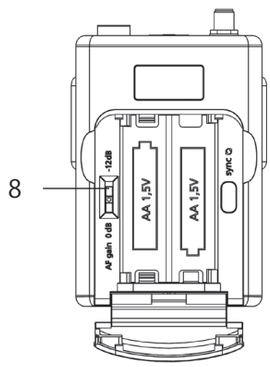




- 周波数その他の設定をレシーバーからトランスミッターに送信するには、レシーバーのチャンネル1（Q1）あるいはチャンネル（Q2）の同期ボタン（5）を押します。
- トランスミッターの電池ケース部（9）の中に、赤外線インタフェース（10）があります。
- 同期中、電源の入っているトランスミッターの電池ケース部カバー（7）を開けて、赤外線インタフェース（10）を直接レシーバーの赤外線インタフェース（4）の正面に向けます。
- 同期が終了すると、**“SYNC successful”** が表示されます。

ゲインスイッチの使い方

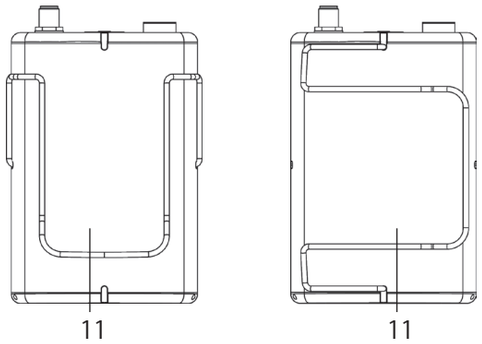




- ベルトパックトランスミッターには、-12dBのアッテネーター機能が付いていますので、楽器用ケーブルを使ってレベルの高い信号ソース（アクティブピックアップの付いたエレキギターやエレキベースなど）を接続することができます。この場合、ゲインスイッチ（8）を「–12dB 」に設定します。
  これらの信号を同じレベルでレシーバーに出力するには、メニュー画面の **“Analog Out”** 項目を **“+12dB”** に設定してください。詳しくは、14ページ「アナログ出力レベルを設定する（Analog Out）」をご覧ください。
- エレクトレットマイクをトランスミッターのピン ミニXLRコネクター（1）に接続する場合、ゲインスイッチ（8）を「0dB 」に設定する必要があります。
  非常に低い信号でも歪みが起きる場合、感度の低いマイクを使う必要があります。なぜなら、マイク内部ですでに歪みが起きているからです。
- レベルの低い信号に対しては、レシーバーの **“Digital Gain”** を上げることによって、オーディオレベルを上げることができます。詳しくは、13ページ「デジタルゲインを設定する（Digital Gain）」をご覧ください。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 34　14/01/21 14:11

ベルトクリップの取り付け方法



- ベルトパックトランスミッターには、トランスミッターを服、ベルト、ギターストラップなどに装着するためのベルトクリップ（11）が2つ付属しています。
- ベルトクリップ（11）を持ち上げることにより、ベルトパックトランスミッターから取り外すことができます。
- ベルトクリップ（11）は、垂直方向または水平方向に取り付けることができます。
  垂直方向：トランスミッターを服やベルトに取り付ける場合
  水平方向：トランスミッターをギターストラップに取り付ける場合

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 35　14/01/21 14:11

第5章　全てのトランスミッターに共通の注意

- トランスミッターの電池残量を確認して、必要に応じて交換するか充電してください。新品のアルカリ乾電池またはニッケル水素電池をお使いください。
- 電池を交換する前に、トランスミッターの電源を切ってください。
- トランスミッターを数週間あるいは数ヶ月使用しない場合、電池を取り出してください。長期間電池を使用しないと、液が漏れて部品を腐食させることがあります。この場合は、修理はできません。全ての保証は無効になります。電池に「leak proof」と表示してあっても、液漏れしない保証はありません。
- 時々、アルコールを含ませた柔らかい布を使って、電池の接点を清掃することをお勧めします。
- 使用済みの電池は、各自治体で決められたルールにしたがって廃棄してください。
- 本機で単3形ニッケル水素電池を充電することはできません。市販の充電器をご使用ください。

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 36 14/01/21 14:11

第6章　オーディオレベルについて

TG 1000 の開発において、オーディオを忠実に送信し、シンプルに取り扱えるシステムを作ることを目標にしました。
実際のアプリケーションにおいて広いダイナミックレンジをカバーするために、オーディオレベルを調整する方法がいくつかあります。

トランスミッターのレベル設定

TG 1000 システムは、ベルトパックトランスミッターの感度スイッチ以外にはトランスミッターのレベル設定がありません。その代わり、非常に広いダイナミックレンジで、アナログ・デジタル変換およびコーデックが動作します。必要であれば、あるいは希望があれば、トランスミッターを同期したり新しい設定を行うことなく、レシーバーのボリュームを調節することができます。

ベルトパックトランスミッターのゲインスイッチについて

このスイッチを使って–12dBのパッシブが可能です。非常に高いレベルの信号ソース（アクティブピックアップ付きのエレキギターやエレキベースなど）を接続するときに、このスイッチが役立ちます。
エレクトレットマイク接続時には、ゲインスイッチ（8 ）を「0dB 」に設定します。非常に高いレベルの信号のときに歪みが起きる場合は、感度の低いマイクを使う必要があります。というのは、この場合、マイク自体の内部で歪みが起きているからです。エレクトレットマイクの出力レベルは、ベルトパックトランスミッターから供給される電圧以上にはなりません。そして、このレベルは0dBポジションであっても、滑らかに処理されます。-12dBのアッテネーター はレベルを低減しますが、歪みを回避することはできません。

レシーバーのレベル設定

レシーバーには、出力レベルに影響を与える機能が2つあります。

デジタルゲイン

このパラメーターで、レベルをデジタル的に高めることができます。ゲインは0dB ～+30dB（3dBステップ）の範囲で設定できます。想定以上のレベルの信号を入力したとき、リミッターが働いて、設定したゲインが一時的に下がります。したがって、D/Aコンバーターのオーバーロードおよびそれに伴う聴感上の歪みを避けることができます。

アナログ出力

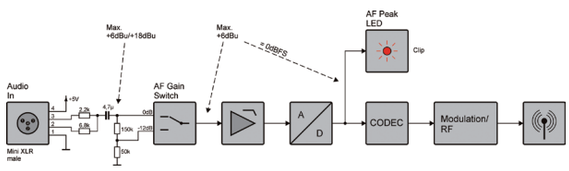
このパラメーターで、出力段のゲインをアナログ的に変更できます。0dBと+12dBの2つの設定があります。 +12dBに設定すると、ダイナミックレンジを犠牲にすることなく出力レベルが12dB上がります。アナログ出力端子に接続されるデバイスが高い入力レベルを必要とする場合（ミキサーのライン入力など）や、ベルトパックトランスミッターの–12dBのアッテネーター を使うことによるレベルロスを補う場合、+12dBに設定することをお勧めします。

システム全体による増幅度

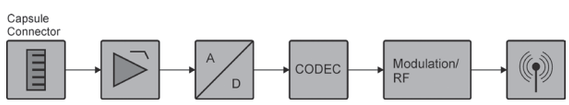
システム全体としてのゲインは、3つの調整値（ゲインスイッチ、デジタルゲイン、アナログ出力）を足し合わせることによって簡単に計算できます。
これら3つの値が 全て0dBに設定されている場合、出力レベルは入力レベルと同じになります。例えば、楽器ケーブルを接続したベルトパックトランスミッターを使う場合、TG 1000 は「ワイヤレスケーブル」のように働きます。ディストーションの掛かったギターサウンドは、「実際の＝リアルな」ケーブルを使った場合と同じです。
ハンドヘルドトランスミッターを使う場合、出力レベルは同等のワイヤードマイクの出力レベルと同じです（ただし、V90w リボンマイクカプセルの場合を除きます。このマイクカプセルでは、S/N比をより良くするためにゲインがマイクカプセル自体の中で与えられています）。
ベルトパックトランスミッター側で–12dBのアッテネーター を必要とするような音の大きい楽器の場合、**“Analog Out”** パラメーターを+12dBに設定することにより、出力レベルを入力レベルに合わせることができます。こうして、「ワイヤレス・ケーブル」という目的は保たれます。

ブロックダイヤグラム

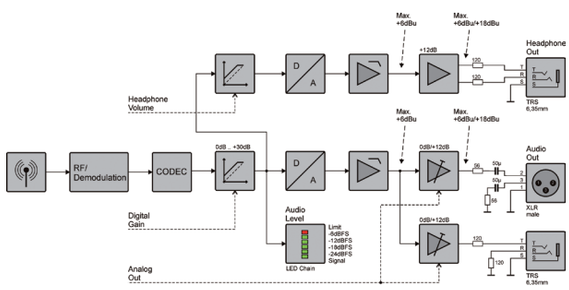
ベルトパックトランスミッターのオーディオレベル



ハンドヘルドトランスミッターのオーディオレベル



レシーバーのオーディオレベル



J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 37 14/01/21 14:11

第7章　別売アクセサリー

デジタルUHFダイバシティレシーバー用

アンテナスプリッター

WA-AS6　　：6系統アンテナスプリッター（BNC接続、DC8Vをアンテナに供給、470 ー 790MHz）

アンテナ

WA-ATD　　：UHF指向性アンテナ（BNC接続、470 ー 790MHz）
WA-ATO　　：UHF無指向性アンテナ（BNC接続、470 ー 790MHz）

ケーブル

WA-AC5　　：50Ω同軸ケーブル・10m（BNCコネクター付き）
WA-AC10　　：50Ω同軸ケーブル・10m（BNCコネクター付き）
WA-AC25　　：50Ω同軸ケーブル・10m（BNCコネクター付き）
WA-CKF　　：フロントアンテナ取り付け用BNCケーブル（TG　1000シリーズ用）
WA-CKL　　：BNCカスケード接続用延長ケーブル（TG　1000シリーズ用）
WA-CGI　　：ミニXLR4pin ー TS標準ジャック変換ケーブル（TG　　1000シリーズ用）

アンプ

WA-AMP　　：アンテナ用アンプユニット（アンプ出力切り換え：5/10/15/20dB、470 ー 790MHz）

デジタルUHFハンドヘルドトランスミッター用

交換用マイクカプセル

TG-V50w　　：TG　1000用ダイナミック型マイクカプセル
TG-V56w　　：TG　1000用コンデンサー型マイクカプセル
TG-V70w　　：TG　1000用ダイナミック型マイクカプセル
TG-V90w　　：TG　1000用ダイナミック（リボン）型マイクカプセル
TG-V96w　　：TG　1000用コンデンサー型マイクカプセル

デジタルUHFベルトパックトランスミッター用

接続可能マイク

TG　L55c　　：無指向性コンデンサー型アナウンス用ラベリアマイク（黒）
TG　L55c　tan　　：無指向性コンデンサー型アナウンス用ラベリアマイク（肌色）
TG　H54c　　：単一指向性（カーディオイド）コンデンサー型ヘッドセットマイク（黒）
TG　H54c　tan　　：単一指向性（カーディオイド）コンデンサー型ヘッドセットマイク（肌色）
TG　H55c　　：無指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク（黒）
TG　H55c　tan　　：無指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク（肌色）
TG　H74c　　：超単一指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク（黒）
TG　H74c　tan　　：超単一指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク（肌色）
TG　H75c　　：無指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク（黒）
TG　H75c　tan　　：無指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク（肌色）

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd　38　　14/01/21　14:11

デジタルUHFダイバシティレシーバー

動作原理
　UHF帯　デジタル変調　トゥルーダイバーシティ方式
周波数帯
　470MHz ～ 714MHz（Region　　E：日本仕様）
周波数特性
　20Hz ～ 20kHz
ダイナミクスレンジ
　116dB ／ 128dB（TG1000BT　　+12dB　Pad：ON）
最大出力レベル（XLR）
　+18dBu（0 ～ 30dBのデジタルゲイン調節、+12dBのアナログブースト機能あり）
ヘッドホン出力
　切り換え式、ボリューム調節付き
遅延
　2.1ms（送信機から受信機までのシステム全体の数値）
オーディオコーデックおよび暗号化
　トリプルプレイコーディック
　（beyerdynamic独自の16ビットパターンによる暗号化）
ディスプレー
　有機EL
電源
　AC　100 ～ 240V
消費電力
12W
重量
　3.2kg
外形寸法
　420　x 43　x 242mm（幅　x 高さ x 奥行き）
アンテナ接続端子
　BNC入力　x2、BNC出力　x2
動作温度
　0 ～ 55℃

デジタルUHFハンドヘルドトランスミッター

動作原理
　UHF帯　デジタル変調
周波数帯
　470MHz ～ 714MHz（Region　　E：日本仕様）
周波数特性
　20Hz ～ 20kHz
ダイナミクスレンジ
　116dB（A-weighted）
オーディオコーデックおよび暗号化
　トリプルプレイコーディック
　（beyerdynamic独自の16ビットパターンによる暗号化）
空中線電力（送信出力）
　5mW （RF Power Standard）／ 22mW（RF　Power High）
ディスプレー
　有機EL
最大送信可能距離
　最大300m（最適条件下）
電源
　単3形電池2本
電池持続時間
　約8時間（ニッケル水素電池使用時、RF Power Standard）
重量
　152g（電池およびマイクカプセルを除く）
外形寸法
　200　x φ36mm（全長　x 直径）

デジタルUHFベルトパックトランスミッター

動作原理
　UHF帯　デジタル変調
周波数帯
　470MHz ～ 714MHz（Region　　E：日本仕様）
周波数特性
　20Hz ～ 20kHz
ダイナミクスレンジ
　116dB（A-weighted）／ 128dB（+12dB　　Pad：ON）
オーディオコーデックおよび暗号化
　トリプルプレイコーディック
　（beyerdynamic独自の16ビットパターンによる暗号化）
空中線電力（送信出力）
　8mW （RF Power Standard）／　40mW （RF Power High）
ディスプレー
　有機EL
最大送信可能距離
　最大300m（最適条件下）
アナログ入力端子
　4ピン ミニXLRコネクター
　　（1：GND、2：In-1、3：In-2、4：+5V）
最大入力レベル
　+18dBu
電源
　単3形電池2本
電池持続時間
　約8時間（ニッケル水素電池使用時、RF Power Standard）
重量
　102g（電池を除く）
外形寸法
　59　x 94　x 26mm（幅　x 高さ x 奥行き）
アンテナ端子
　SMAコネクター

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 39　14/01/21 14:11

第8章　仕様

WA-AS6　6系統アンテナスプリッター

対応周波数帯
　470MHz ～　790MHz
接続端子
　BNCメス
重量
　1.12kg
外形寸法
　484　x 44　x 90mm（幅　x 高さ x 奥行き）

WA-AMP　アンテナ用アンプユニット

対応周波数帯
　470MHz ～　790MHz
接続端子
　BNC
アンプ増幅値
　5/10/15/20dB（切り換え式）
供給電圧
　8V
消費電力
　70mA
重量
　40g
外形寸法
　76　x 25　x 19mm（幅　x 高さ x 奥行き）

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 40　14/01/21 14:11

Memo

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 41 14/01/21 14:11

Memo

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 42 14/01/21 14:11

Memo

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 43 14/01/21 14:11

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

オーディオブレインズまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00 ～ 18:00 です。

株式会社 オーディオブレインズ

〒224-0044神奈川県横浜市都筑区川向町797-1

TEL: 045-472-6765　　FAX: 045-472-6875

Printed in Japan

J_beyerdynamic_TG1000_OM_A4(CS6).indd 44　　14/01/21 14:11